

編集発行者
千葉大学医学部
るのほな同窓会報編集部
〒260-8670 千葉市中央区玄鼻1-8-1
千葉大学医学部内
るのほな同窓会
電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail : info@inohana.jp
HP : https://www.inohana.jp/



千葉大学医学部同窓会報 第191号 題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るのほな同窓会長)

年頭の挨拶

るのほな同窓会長 吉原俊雄 (昭53)



新年あけましておめでとうございます。令和5年が会員の皆様にとりまして、良い年でありますことを心より祈念いたします。長引くコロナ禍も、本年は皆で乗り切って行けるものと強く信じております。

同窓会として昨年1年間活動を振り返りたいと思います。

・旧本館(旧病院)の閉館に伴い制作した記録DVDは多くの方々の眼に触れ、数多の先輩方が刻まれた千葉医学の伝統を再認識することができました。そして様々なご評価を頂きました。2024年(令和6年)には医学部創設150周年を迎えますが、この時期に旧本館の歴史を辿れたことは150周年記念に花を添えたことと思います。

・田邊政裕理事(昭49)が主体となって編纂された医学部の歴史年表が完成し、各教室の歴史の多くを知ることができました。本年表が基礎となり千葉大学医学部の新しい歴史が刻まれていくことでしょう。

・会長として支部総会の訪問も積極的に行いました。コロナ禍もあり開催できなかった支部、ハイブリッド開催の支部と様々でしたが、5月に千葉県るのほな会、6月の全国るのほな同窓会総会と講演会開催、7月には神奈川るのほな会、東京るのほな会と続けて参加させて頂きました。今後同窓会として、各支部の活性化のため、支援を続けて行きたいと存じます。また、医学部関連行事として記念講堂で行われました卒業式、慰霊祭、白衣式に臨席いたしました。

・9月17日(土)には毎年、銀座の画廊で開催される「るのほな美術展」を表敬訪問してきました。同窓の素晴

らしい作品が展示されています。最近では若い同窓の参加が少くないとのことでした。同窓会として財政支援が続けていますが、せっかくの企画ですのであらゆる世代の同窓が参加されるよう呼びかけなど後方支援を行っていきたく考えています。是非、出展希望の先生はお問い合わせください。

(20面に掲載)

・磯野可一元学長が平成14年に発足された千葉大学校友会世話人が7月に、総会が11月5日(土)に西千葉キャンパスにおいて開催され出席いたしました。輪番制で副会長を2年任期で行うこととなっています。総会後は全学ホームカミングデーが千葉大学やき会館で開催、各学部OBの交流の場となりました。

・11月20日(日)に医学部ホームカミングデーをるのほな同窓会館にて開催いたしました。卒業50年(昭47)の先生方、卒業25年(平9)の先生方に参加頂き、表彰状、記念のメダル等授与、医学部歴史年表掲示、両学年の先生方の学生時代の話題が掲載されている同窓会報記事の紹介、2学年同時に同期会を開いたような楽しい時間を過ごすことができました。

(6、7面に掲載)

・宇都宮記念病院院長より「中山恒明記念館」の案内状を頂きました。中山先生ゆかりの書籍、写真、手術器具などが展示されています。是非連絡をとっていただければと思います。

(21面に掲載)

・11月22日は記念講堂にて医学部4年生の白衣式に臨み、祝辞と白衣授与と今後の臨床実習に向けての激励、そして同窓会の意義について述べました。

(18面に掲載)

・旧本館の今後の展望について、同窓会として保存への可能性につき皆で知恵を絞っているところです。ポイントとは県民・市民にメリットのある施策と玄鼻キャンパスのシンボルとなることです。これまでに千葉大学施設環境部や文部科学省関係者の方に直接DVDをお渡しし、今後は千葉県知事や千葉市長にDVD謹呈と懇

祝 叙 勲

令和4年 秋の叙勲
旭日双光章
相沢 甲貴
(東京歯大・昭45)

瑞宝双光章
神田 敬(昭35)

談を考えています。最後に改めて千葉大学医学部の発展、るのほな同窓会の活性化頂ければ幸いです。

化のため、本年も同窓の先生方からのご協力ご支援をお願いします。

最終講義

のご案内

脳神経外科学
岩立 康男 教授
日時 2023年3月22日(水) 午後3時より
場所 附属病院3F ガーネットホール
演題 脳の原理
(詳細) nogesec@office.chiba-u.jp (対面、状況によりオンラインも検討)

麻酔科学
磯野 史朗 教授
日時 2023年2月27日(月) 時間未定
場所 附属病院3F ガーネットホール
演題 麻酔科医の活動…手術室から外へ
(詳細) https://www.ho.chiba-u.ac.jp/dept/masui/ (ハイブリッド開催予定)

疾患生命医学
幡野 雅彦 教授
日時 2023年2月17日(金) 午前9時30分より
場所 医学系総合研究棟3F 第一講義室
演題 疾患モデルマウスと歩んだ40年
(詳細) https://www.m.chiba-u.ac.jp/dept/shikanschein/ (ハイブリッド開催予定)

紙面紹介

年頭の挨拶	2	5	1
新任挨拶	2	5	1
人事異動	2	5	1
クラス会	2	5	1
ホームカミングデー	6	7	14
研修プログラム	8	9	17
研修医だより	8	9	17
学生会教育	10	16	17
追悼文	11	11	17
欧州医学史巡り	11	11	17
千葉医療センター	12	13	13
所蔵の血兵品	12	13	13
雑文雑談	13	13	13
新型コロナ	13	13	13
ITツールの活用	13	13	13
学内情報	13	13	13
課外活動団体だより	13	13	13
タッチパネル	13	13	13
会員から	13	13	13
地区るのほな会報	13	13	13
著書紹介	13	13	13
議事要旨	13	13	13
編集後記	13	13	13

就任挨拶

帝京大学医学部附属溝口病院

外科 教授

三浦 文彦 (平3)



この度、令和4年(2022年)10月1日付で帝京大学医学部附属溝口病院外科教授を拝命いたしました。これまでご指導いただきました諸先生方に心より感謝申し上げます。

私は1991年に千葉大学を卒業しました。学生時代は、硬式野球部に所属し学部1年から雄翔寮に入寮しましたので、いわゆる亥鼻原人状態で、ほとんど講義に出席しないという不真面目な医学生でした。医学部生活においては、硬式野球部部長の故高橋英世教授(小児外科)の存在が大きかったと記憶しています。卒業式の後に同級生4人とともに寿司店に飲み連れに行っていたので、その席で高橋教授から、

「今まであなた達に勉強しろとは決して言わなかったが、医者になってからは患者さんの命を預かるんだから、一生懸命勉強しなさい。」という言葉をいただきました。リベラルな教育をしてくださった高橋先生を裏切ってしまうといけないと心に誓いました。

卒業後すぐに磯野可一教授が主宰していた第二外科(現先端応用外科)に入局しました。レントゲン研究室で岡住慎一室長(現東邦大学医療センター佐倉病院外科教授)のご指導の下、胆管癌の画像診断で学位を取得した後、2000年4月に関連病院への出張から帰局しました。当時の学内は、臓器別再編前夜のような状態で色々な噂が飛び交っていました。徐々に第二外科肝胆膵グループ解体に向けて物事が進んでいき不安と無力感が募っていました。第二外科に患者を紹介してくれていた内科

医が第一外科に紹介するようになり、大変悔しい思いをしたのを覚えています。そのような中で身の振り方を悩んでいましたが、落合武徳教授のお取り計らいで2003年8月から落合教授と千葉大学同期の帝京大学外科(肝胆膵) 高田忠敬教授の下で研鑽を積むことになりました。帝京大学では高田教授が退官後の2007年から、第二外科でもご指導いただいた浅野武秀教授に再びご指導いただく機会を得ることができました。

学生時代の不勉強のせいで基礎研究に苦手意識があつたため、ずっと臨床畑を歩んできました。2005年に第二外科の症例をまとめて、脾動静脈非温存脾温存脾体尾部切除術後に胃静脈瘤が高率に発生することを示して、この術式は避けべきと結論付け Surgery誌に報告しました。この論文は多くの論文で引用されましたが、その後の長期経過観察の結果、胃静脈瘤出血は1例にも発生しなかったことが明らかになりました。そこで状況によっては容認できる術式であると結論を改めて、Letters to the editorsに投稿しました。論文採択後に同誌の編集委員

長からメールがあり、自分の研究結果や主張を改めて報告する研究者は少ないので、それを実行したことは称賛に値すると述べられていました。大変感激したとともに、これからも臨床上の興味と疑問点に基づいた研究と真実に忠実な研究姿勢を貫いていこうと決心しました。脾胆道外科の臨床研究を継続してきましたが、最新の胆道癌診療ガイドラインに小生が筆頭著書の論文が4編引用され、研究姿勢は間違いではなかったのではないかと自負しております。

当院は、1973年7月に開院し2017年5月に隣接地に新築移転しました。最大のアピールポイントは東急田園都市線で渋谷から18分の高津駅より徒歩1分というロケーションです。病棟からはセレブの町として人気の二子玉川駅前のショッピングセンターと何かと話題の武蔵小杉駅周辺のタワーマンシオン群を近くに眺めることができます。2020年4月の着任当初は、脾切除と肝切除の第1例目を施行する前に看護師さん向けの勉強会を開催してから臨むなど、まさに「立ち上げ」という感じでした。その後症例数は順調に増え

人事異動

教授

千葉大学
総合安全衛生管理機構
大溪 俊幸(平9)

准教授

環境労働衛生学
能川 和浩(産業医大・平8)

講師

眼科学
辰巳 智章(平14)

認知行動生理学
沼田 法子

小児病態学
塩濱 直(平15)

耳鼻咽喉科学・頭頸部腫瘍学
鈴木 猛司(順実美・平15)

集中治療部
島田 忠長(平14)

消化器内科
大山 広(平18)

他大学教授

北里大学医学部免疫学単位
末永 忠広(平11)

帝京大学医学部附属
溝口病院外科
三浦 文彦(平3)

藤田医科大学
金子慎二郎(平9)

東京大学大学院
鎌谷洋一郎(平14)

るのほな同窓会賞受賞候補者募集要項

第二八回(二〇二三年度)るのほな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集いたします。

一、受賞対象者

① 社会貢献賞

本会員で、医療活動の顕著な業績により、社会に高い貢献をした個人またはグループ。
医学および広く文化の各領域において、千葉大学および千葉大学るのほな同窓会に多大の貢献をした者。

二、表彰

① 社会貢献賞 (三件以内)

盾および賞金(総額三十万円以内)を贈呈します。

② 功 勞 賞 (一件以内)

盾および賞金十万円を贈呈します。

三、応募方法

所定の申請用紙により、二〇二二年十二月一日から二〇二三年一月三十一日までに申請して下さい。

四、受賞者の決定

選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。

五、問い合わせおよび申請用紙請求先

審査結果は二〇二三年五月中頃までに各申請者に通知すると共に、るのほな同窓会報に掲載します。
千葉大学医学部内、るのほな同窓会事務局
申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。

東京女子医科大学

循環器内科学 教授・基幹分野長

山口 淳一 (平5)



平成5年卒業の山口淳一と申します。この度、色々なめぐり合わせも重なり、令和4年(2022年)4月28日付で東京女子医科大学循環器内科教授・基幹分野長に就任することとなりました。

私は、卒業と同時に東京女子医科大学循環器内科に入局致しましたが、入局するきっかけとなったのは、大学6年生のときに見学した女子医大〇〇〇〇のレジデント、指導医のいきいきとした姿が非常に印象的であったことです。当時私は、心臓血管外科、脳外科、一般外科そして循環器内科を候補として考えておりましたが、この見学をきっかけに心臓の救急医療というものに強く惹かれ、臨床に強い女子医大循環器内科の門を叩くことを決意致しました。女子医大でなんとか頑張れ

るところまで頑張つて、その後は実家のある山形市に戻つて医師を続けるつもりでおりまして、今年医師となつて30年目を迎え、未だ大病院に勤務していることは私にとつても予想外のことであります。

入局後はカテーテル治療に興味を覚え、とにかく少しでも多くのカテーテルに入り、間近で治療の手法をみることに注力し、関連病院出張前の3年目の終わりに自身初めてのカテーテル治療を得ることができました。初めて赴任した出張病院ではカテーテル治療を行つておりませんでした。赴任5ヶ月後に当時主任教授であった細田達一先生からカテーテル治療を行う許可を得ることができ、看護師、臨床検査技師、放射線技師とともに、手探りの中1例1例、症例を積み重ねる日々が続きました。こうした経験が、現在の私の医師としての根幹を作る時期となりました。

その後、虚血性心疾患に対する遺伝子治療・細胞治

療への興味から2000年から2002年にポストンのタフツ大学に基礎研究の留学機会も得ましたが、やはり臨床での仕事が自分のライフワークであるということも再認識するきっかけにもなりました。

2009年から循環器内科〇〇〇室長/カテーテル検査室長として大学に戻り、2018年からは低侵襲心血管治療部門特任教授を拝命して、冠動脈・末梢血管に加えて、重症弁膜症に対してのカテーテル治療の立ち上げに力を注ぎ、2019年には心血管カテーテル治療の総症例数が初めて年間1000例を超えるところとなりました。

これからも、自分自身のカテーテル治療技術への向上心を持ち続けることを忘れず、一人の医師として、「困つている患者さんがいたらお力となるためのあらゆる努力をする」という医療人としての基本的な理念のもと、医局員一同およびメディカルスタッフとともに、優しさと思いやりを大切にしたい医療を提供したいと考えております。

浅学の身ではございますが診療、研究および教育に一層精励いたす所存でございます。千葉大学の諸先輩

藤田医科大学医学部

脊椎・脊髄科 教授

同窓の先生方への御挨拶



平成9年(1997年)3月に千葉大学医学部を卒業した金子慎二郎と申します。

令和元年(2019年)7月より、藤田医科大学医学部の脊椎・脊髄科教授として勤務をさせて頂いております。

この度、千葉大学医学部の同窓会報への原稿執筆の御依頼を頂きましたので、引き受けさせて頂きました。私は整形外科医ですが、脊椎診療を専門としており、脊椎診療の中でも、側弯症や後弯症等の脊柱変形に対する診療を主な専門としております。

私は、千葉大学医学部卒業後、慶應義塾大学の整形外科学教室に入局し、慶應義塾大学の様々な関連病院

と存じます。今後とも何とぞご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

金子 慎二郎 (平9)

に勤務した後、アメリカ合衆国のBostonにあるHarvard Universityの附属病院に約3年半、勤務致しました。日本に帰国後、2019年7月に藤田医科大学に赴任するまでは、脊椎・脊髄疾患診療に特化した国のセンターの様な形の病院である国立病院機構村山医療センターに約12年間、勤務をしておりました。

この間、様々な職場で、数多くの事を学ばせて頂きましたが、千葉大学医学部に在籍中も、教官の先生方からは勿論、同窓の先輩・同級生・後輩からも、非常に多くの事を学ばせて頂きました。

千葉大学医学部に在籍中、部活動では野球をやらせて頂き、野球を通じて非常に多くの事を学ばせて頂きました。

この場をお借りしまして、皆様に感謝申し上げます。この度、この様な機会を

頂きましたので、主には後輩の若手の先生方や学生さんに対するメッセージという事で、紙面制限の都合上、1つに絞つてアドバイスをさせて頂きたく存じます。新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延が長引き、若手の先生方が海外留学をする機会が全国的に激減しておりまして、国際的な人事交流が再開されつつあります。

また、近年は、各診療科の専門医取得に際しての制度が変わつてきている影響もあり、多くの診療科で、海外留学を希望する若手の先生方の数が減つてきていると伺っております。

私自身は、Harvard Universityの附属病院に約3年半、勤務したり、また、海外に手術見学に行ったり、

今後とも尽力させて頂く所存でございますので、今後とも、御指導・御鞭撻の程、よろしく御願ひ致します。

海外での国際学会に参加をしたりする機会を多く頂き、非常に多くの事を学ばせて頂きました。

若手の先生方が現在、御所属されておられる医局の主任教授の御許可を頂ける様な機会があれば、是非海外留学等をされると良いと存じますので、私から後輩の先生方へのメッセージとさせて頂きます。

令和5年度 んのはな同窓会総会のご案内

日時：令和5年6月10日(土) 14:30~18:00

会場：ステーションコンファレンス 東京(ハイブリッド開催)

詳細につきましては、後日お知らせいたします。同窓の先生方のご参加をお待ちいたしております。

北里大学医学部

免疫学 教授



末永忠広 (平11)

この度、同窓会報に誌面を頂戴し、ご挨拶させていただきますこととなりました。令和4年(2022年)9月1日付けで、北里大学医学部免疫学の4代目教授を拝命いたしました末永忠広と申します。

私は、平成11年に卒業後、服部孝道先生の神経内科学に入局し、千葉大病院での1年間の勤務と栃木県の下都賀総合病院(現とちぎメディカルセンター)もつが)神経内科でのトレーニングで、現在の私の臨床医としての基礎が形成されました。その後大学院に入学いたしました。現脳神経内科学教授の桑原聡先生の研究も大事にされるお考えもあり、齊藤隆先生(現理化学研究所チームリーダー)が主宰されていた遺伝子情報学(後に遺伝子制御学と改称)に免疫性神経疾患の研究のた

め学内留学をさせていただきました。当時、多田富雄先生に源を発する免疫学の谷口克先生・中山俊憲先生の研究室、徳久剛史先生の研究室、古関明彦先生の研究室との合同ミーティングなど、日夜活発な研究と議論が行われていました。私は齊藤研出身で20人目のメンバーですが、当時から今も研究や学会でサポートをしてくださっている各研究室の皆様のおかげと思っております。この大学院生時代の研鑽の日々で、今の自分の礎となっている、新しいことに挑みロジカルに物事を考察するといったサイエンスマインドが培われました。

大学院修了後は、千葉大病院や川鉄千葉病院(現千葉メディカルセンター)での勤務を経て、大学院時代の指導教官であった大阪大学微生物病研究所教授、荒瀬尚先生の下で、ヘルペスウイルスをはじめとした感染症に対する免疫応答や、自己免疫疾患と感染の関連性の研究を行いました。この間、文科省新学術領域の研

究班に誘っていただいた東京医科大学免疫学教授、横須賀忠先生には、部活、院生時代から現在に至るまでご指導いただいております。その後、福島県立医科大学微生物学講座で、医学生教育の薫陶を受けました。千葉を離れておりました際も、それぞれの地の同窓の先生方には折に触れ気にかけていただき、福島では学部・医局の同級生でもある福島県立医科大学脳神経内科教授、金井教明先生に多くのご支援をいただきました。現職の北里大学医学部には、整形外科の高相晶士先生、産婦人科の加藤一喜先生、乳腺・甲状腺外科の三

東京大学大学院

新領域創成科学研究科 教授



鎌谷洋一郎 (平14)

私は平成14年に卒業いたしました鎌谷洋一郎です。令和元年(2019年)6月1日付けで東京大学大学院新領域創成科学研究科教授に就任いたしました。

私は卒業後、当時の第二内科に入局し、齋藤康教授のもと、現在の内分泌代謝・血液・老年内科学の教授でいらつしやる横手幸太郎先生の直接のご指導をいただき幸運を得て研修を開始しました。その後旭中央病院で日夜問わず揉まれ、また当時の松戸市立病院で経験

私は小学校の頃、家にMacintosh Plusという面白い黒のパソコンがあつて、HyperCardという今はなきオブジェクト指向プログラミング環境でゲームを作つて一人で遊んでいるような子どもでした。大学に入つてからは(これも今はない)準硬式野球部で、(今はない)亥鼻グラウンドをそれなりに駆け回つていたので(下手くそでしたが)、すっかり忘れていたのですが、研修を終えつつあつて研究をしようかという時に、コンピュータを使う研究をしてみたいなと思ひました。また、これらの研修を経て同じような生活習慣でも疾患の病像に多様性が見られることに興味を持つていました。さらには旭中央病院での研修では、時折訪れるアメリカの臨床医がEBM、つまり統計学をかなり重視していることに興味を持ち、統計解析を行いたいと思ひました。

そこで医局にわがままを申しまして、大サンプルのゲノムデータを用いて多因子疾患に遺伝統計解析を行うことで多様性を解明するプロジェクトを進められていた東京大学大学院新領域創成科学研究科の中村祐輔先生のラボに入局しました。

千葉大学災害治療学研究所が発足

千葉大学災害治療学研究所 所長



三木隆 司 (昭63)

令和3年(2021年)10月に千葉大学災害治療学研究所が発足致しました。本研究所は、2019年9月に千葉県を直撃した台風15号(正式名は令和元年房

私が初めて行った全ゲノム解析では患者数が2000人程度で、それでも当時は数が多いとは言われていたのですが、それから15年経つた今、世界最大のゲノム解析はすでに500万人以上の解析となつています。私はコンピュータを使った研究をして疾患多様性の理解をしたいという夢を叶えることができ、それに職もついてくる幸運を得たものの、診療への実装へとながつていけないなと思ひつつ、横手先生とも共同研究をさせていただきつつ、白金台で研究を引き続き行つていきます。機会がありましたらぜひお立ち寄りください。

総半島台風)がもたらした健康被害と、2020年から始まった新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界流行を受けて、「災害時・災害後にも人々の健康を守るる社会作り」を目指して、文部科学省から設置が認められました。特に、災害時の救急医療に代表される災害の急性期対応の重要性に加え、これ

まで十分には研究と対策が進められていなかった「社会環境や生活様式の変化が被災者に及ぼす、様々なストレスによる慢性期の健康被害」に焦点を当て、病態解明、革新的な診断・治療法の開発などを進めていくことを目指しています。

これらの健康被害は、災害時・災害後に起こる様々な生活変化や社会変化が複雑に影響して発生すると考えられることから、その解決には多様な問題点を包括的に理解して解析するアプローチが必要で、そこで本研究所は、医学研究院・医学部附属病院のみならず、薬学研究院、看護学研究院、真菌医学センター、園芸学

研究科、環境リモートセンシング研究センター、社会学、社会学研究などに所属する様々な学術領域の専門家が集結し、16部門から構成される研究体制で、協働しながら学際的な研究を進めて参ります。さらに、社会実装を進める上で各自治体との連携や様々な企業との共創体制を



千葉大学災害治療学研究所（2022年度竣工）

構築することも必要で、現在様々な連携が始まっています。

日々住民の健康を守っておられる医療機関の先生方が、災害時・災害後でも平時と大きく変わらぬ状況を保って、医療の最前線でご活躍できるようにすることが理想であります。ゐのはな同窓会の先生方におかれましては、今後、様々な形でお力添えを賜り、本研究所の研究と社会実装の推進にご貢献いただければ幸いです。私どもも研究所のミッションを胸に、微力ながら活動に邁進いたしますので、よろしくご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

クラス会

参旧会 (昭39)

昭和39年卒の参旧会は大変に珍しいクラス会で、数年前まで会員の勤務先の地方や「ゆかり」ある地に1泊、時に沖繩・徳島など遠方ですと2泊して会を開いておりました。もう一つ卒後55年間1年たりとも休会したことが無く例年5月末に開催されておりました。しかし令和元年の東京での開催を最後にコロナ禍により令和2年から今年の定例会まで中止を余儀なくされました。

こんな中今年の夏頃に、一部会員より皆高齢になって来て会に出席できなくなるかも知れないので、出席できるもので開会しようという声が上がりました。令和2年来的の5名の千葉市美浜区・稲毛区在住者の幹事会で検討の末、10月12日に千葉市幕張ホテルニューオータニで復活開催しました。3年半ぶりでしたが、会には19名(会員16名、夫人3名)もの多数が集まりました。

会の進行は遠藤毅幹事が執り行い、先ずこの3年半

に亡くなられた栗林士郎、平形昭代、額賀章好、小林俊憲君の、ご冥福を祈って黙祷を捧ました。鈴木守君の音頭で乾杯を行いました。続いていまの母校の事情に明るい元ゐのはな同窓会会長の伊藤晴夫幹事から医学部に関するの人事や新しい建造物についての話があり、母校の発展が紹介されました。

其の後は出席者の時間制限無しの近況報告とスピーチがありました。多くの出席者が何等かの医療・福祉の仕事の一翼をまだ担っているようでしたが、殆どフルタイムで公的な仕事をこなしている会員もおりました。

健康に恵まれた会員も多く、まだ週1回のゴルフやテニスを続けているよう、皆に元気を与えています。欠席しましたが河井克仁君は、いまだ医学部学生システム講義を週2回続けているという報告で、皆さらに驚きでした。いろいろな近況報告がありました。当然ながら皆の多くは様々な持病と共に生活しているのです。病のことより話の近況が多いようでした。学生時代に返って楽しい貴重なひと時を過ごしました。

途中で会員の岡野照美さんの詩の紹介が伊藤幹事よりありました。岡野さんは故郷の長野県小布施町で地域医療に献身するかたわら詩をつくっていて、音楽家がその詩に作曲をして歌になっているそうです。今回は「北信濃春秋」という小冊子の詩集が皆に用意されました。曲をBGMに詩を読むと、豊かな自然の中

で書かれた素材で分かりやすい詩が引き立ちます。2次会はラウンジの一部で、まだ飲み足りないのかビールを飲み続けていた会員もおりましたが、ドリンクなどで何時までも尽きない歓談をしました。

来年は深尾立君他が幹事で会が予定されることが決まり、皆さん再会を期してお開きとなりました。写真右から

- (今野貞夫幹事撮影)
- 前列：深尾夫人、万本盛三、大塚嘉則、高根健、深尾立、山下武広、遠藤毅、碓井貞仁、中村征一郎
- 後列：万本夫人、高根夫人、秋草克彦、鈴木守、河野守正、上原朗、伊藤晴夫、林學、崎山樹、今野貞夫
- (山下武広)



千葉大学医学部ホームカミングデー

卒後50年（昭和47年）卒業生

卒後25年（平成9年）卒業生

令和4年11月20日（日）於 ゐのほな同窓会館

令和4年（2022年）11月20日（日）にるのほな同窓会館に於いて、昭和47年卒業生、平成9年卒業生をご招待し、千葉大学医学部ホームカミングデーが開催されました。

千葉大学るのほな音楽部による弦楽四重奏の演奏の後、吉原俊雄るのほな同窓会長、横手幸太郎千葉大学医学部附属病院長、松原久裕千葉大学大学院医学研究院長のご挨拶の後、吉原俊雄るのほな同窓会長より、卒後50年卒業生には感謝状と記念メダルが、卒後25年卒業生には激励状とロゴマークバッジが贈呈されました。旧医学部附属病院（旧医学部本館）前で記念撮影を行い、閉会となりました。



写真左から

前列：伊藤文憲、相川英男、西川哲男、白澤浩副会長、田邊政裕理事、吉原俊雄会長、横手幸太郎病院長、栗原正利副会長、中村真人副会長、牧野定夫、山田純子、大川玲子

二列目：宮路太、西野卓、大塚薫、石川詔雄、大西久仁彦、森田敏和、村上光右、樋戸健次郎、加藤誠、諏訪園靖理事

三列目：中嶋征男、外岡正英、長尾啓一、松川正明、檜垣進、鶴田好孝理事、幡野雅彦理事（敬称略）



写真左から

前列：星本さおり、照井エレナ、松本美緒、白澤浩副会長、田邊政裕理事、吉原俊雄会長、横手幸太郎病院長、栗原正利副会長、中村真人副会長、幡野雅彦理事、諏訪園靖理事、鶴田好孝理事

二列目：進藤哲、山田博之、鈴木修一、腰塚周平、大前知也、渡邊栄三、小林一貴、森口武史、吉田一也、外岡亨、石田敬一、行澤齊悟、中島透

三列目：藤田和恵、富田美佳、多田弘子、河野千代子、小野文明、栗山元根、中山崇、安井山広、藤田伸弘、宮本健志、仲沢徹郎、東浩二、沼田理（敬称略）

令和5年度のホームカミングデーは
 昭和48年卒業生（卒業50年）
 平成10年卒業生（卒業25年）
 右記学年の先生方をご招待し、
 11月中旬の開催を予定しています。



参加者全員で



栗原正利副会長



白澤浩副会長



吉原俊雄会長



西川哲男氏（昭47）へ表彰状、記念メダルを贈呈



松原久裕医学研究院長
（ビデオメッセージ）



横手幸太郎
附属病院長



渡邊栄三氏（平9）へ激励状、
ロゴマークバッジを贈呈



会場の様子



千葉大学ゐのほな音楽部による弦楽四重奏



千葉大学医学部年表（田邊政裕理事作成）

研修プログラム

千葉大学医学部附属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科における 研修プログラム

千葉大学大学院医学研究院
耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学

教授 花澤豊行(平元)

1907年に創立された当教室は、100年以上の歴史を有し、千葉県を中心とした患者さんの治療と日本・世界に誇れる新規治療法の開発に当たっています。教室名には、2つの学問領域が含まれています。耳鼻咽喉科学は、子供からお年寄りに至るヒトの聴力、嗅覚、発声、嚥下などの生体機能に関する疾患を扱い、その機能異常はOtolの低下につながるため、幅広い専門性を必要とする学問です。取り扱う疾患としては、皆さんも悩まれる花粉症を含むアレルギー性鼻炎や蓄膿症(慢性副鼻腔炎)、突発性難聴やめまい症など身近な疾患が多く存在します。一方、頭頸部腫瘍学は整容面や生体機能だけでなく、生命をも脅かす悪性腫瘍を多く取り扱う学問です。皆さんがよく耳にする頭頸部

腫瘍としては、舌がん、咽頭がん、喉頭がん、甲状腺がんなどがあるかと思えます。我々頭頸部外科医の守備範囲はとて広く、頭蓋内以外の頭頸部に発生した癌を含む腫瘍、また眼球以外の眼窩内腫瘍、更に胸部より頭側の頸部から上縦郭までの腫瘍や重症膿瘍までが治療対象となり、幅広い解剖学的な知識と高度な手術技術を必要とします。本邦において、当教室は脈々と受け継がれた頭頸部外科治療の開発拠点として現在も発展しています。特に頭頸部癌に対しては、高齢化が進む中で、低侵襲かつ高い根治性を有する治療開発を推し進めています。外科手術においては、鼻・副鼻腔および咽頭・喉頭の悪性腫瘍に対して内視鏡下手術を導入し、頭蓋底に浸潤した腫瘍に対しても開頭せず

に腫瘍の摘出を可能とし、早期退院できる医療を提供しています。また、多様な組織型を有し診断が難しい唾液腺癌に対しても診断方法や治療法を開発し、本邦は勿論のこと、世界に向けてその技術を発信しています。一方、頭頸部癌の患者さんは進行例も多く、外科的治療だけでは完治できないことも多いため、放射線治療や新規の抗がん薬治療を有効に組み合わせることにより、高い治療成績を維持しながら発声や嚥下機能の温存が図れるかを内科的な視点からも追求しています。当教室のもう一つの特徴として新規治療薬の開発を目的とした種々の研究があります。千葉大学の免疫学教室および理化学研究所との共同研究により強力な抗腫瘍作用を有するZs-N1細胞をiPS細胞から作製し、Zs-N1細胞免疫療法として頭頸部癌に対して展開しています。また、分子腫瘍学教室との協力の下に頭頸部癌の遺伝子解析を進め、新たな遺伝子治療薬の発掘にも挑んでいます。更に腫瘍だけでなく、アレルギー疾患の治療、特に罹患率が増加傾向にあるスギ花粉症を含むアレルギー性鼻炎や

難治性の好酸球性副鼻腔炎の新規治療開発も基礎・臨床の両面から研究を進めています。私が考える当科の研修プログラムの目的は、病気を治すということに貪欲な医師の育成です。患者さんと真つ直ぐに向き合い全力を

東京ベイ・浦安市川医療センター

ハートセンター循環器内科 副部長

千葉大学医学部臨床教授

仲間達也(宮崎大・平17)

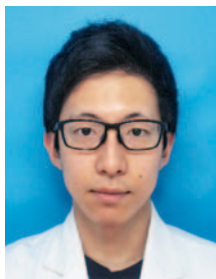
東京ベイ・浦安市川医療センターは、2009年に公益社団法人地域医療振興協会が浦安市川市民病院より経営移譲される形で開設された総合病院です。2012年より新病院での運営を開始し、現在の体制となり10年が経過しました。「医療を通じ地域の絆を育む」を理念とし、旧市民病院が果たしてきた、地域に貢献する医療機関としての役割を維持しながら、教育機関・高度な専門医療を提供する専門治療機関としての役割を進展させています。18床の集中治療室(ICU)を含む344床の入院病床を保有し、千葉県より災害拠点病院・救急基幹医療センターに指定されています。

当院では、高い専門性と風通しの良いチームワークを両立させた「ハートセンター」を有しています。ハートセンターには、心臓血管外科医師、循環器内科医師、診療看護師(心臓外科担当2名、循環器内科担当1名)が所属し、毎朝8時から及び週2回の夕方のカンファレンスにて、全ての手術の適応や術式を議論するなど、診療科の垣根を超えた高度かつ包括的な治療が提供できるような体制を保持しています。朝の術前カンファレンスには、麻酔科医師や、理学療法士、看護師が参加し、手術のみならず術前・術後期・術後の問題を共有し、治療を点として終了させるのではなく、入院から

手術・治療まで、そして自宅退院までを一連の流れとしてサポートできるような、医師・メデイカルスタッフ一丸となった患者さんのサポートが行える様に取り組みんでいます。循環器内科には17名の医師(常勤15名、非常勤2名)が所属し、虚血性心疾患・弁膜症・成人先天性心疾患・不整脈・末梢動脈疾患などに対する専門性の高い診療を提供しております。昨今注目されている、経カテーテル的大動脈弁植え込み術(TAVI)や経カテーテル的僧帽弁クリップ術(MitraClip)をはじめとする、本邦で施行可能な循環器疾患に対するカテーテル治療の殆どを施行する事で、そのため東葛地域や千葉県のみなならず、関東全土から広く紹介を受け入れております。入院患者さんに対しては、原則、総合内科医と併診で患者さんを受け持ち、院内のチームとして、循環器疾患に限らない全人的な医療が行える様なシステムを整えています。また、これは、若い内科研修医・専攻医へ専門家の立場から密な指導を行う事ができるため、病院の診療のクオリティを向上させるのみならず、医学教育の面でも効率的なシステムであると考えています。



私は令和3年(2021年)から千葉大学医学部附属病院と大学院に所属しております。2017年に千葉大学医学部を卒業後、千葉市立青葉病院で2年間初期研修を行った後に2019年に千葉大学アレルギー・膠原病内科に入局し、松戸市立総合医療セン



林 佑紀(平29)

アレルギー・膠原病内科

研修医だより

重症患者さんに関しては、専属の集中治療専門医が管理するICUで専属医師たちとの併診で管理を行うため、より密で専門性の高い医療を提供することができず。地域医療に貢献しながら、千葉大学医学部附属病院、地域医療振興協会の関連病院から多くの研修医・専攻医を受け入れ、将来を担う若い医師を効率よく育てるシステムを有した新しいス

ター、国保旭中央病院で後期研修を行いました。私が医師を志したのは、幼少期に身近な人が全身性エリテマトーデスに罹患したことで「膠原病」に漠然と興味を持ったことがきっかけですが、実際に臨床実習や初期研修を行う中で全身の様々な臓器の病態が関わる膠原病に奥深さを感じたことから、アレルギー・膠原病内科を専門とすることに決めました。

タイルの病院として、今まで少しずつ地域での存在感を増してきております。最後になりましたが、千葉大学ゐのはな同窓会の皆様におきましては、循環器疾患の患者さんのご紹介やご相談がありましたら、いつでもお受けさせて頂きますので、ぜひご遠慮なくご連絡ください。また、施設見学も歓迎いたしますので、お気軽にご連絡ください。

関節エコー・穿刺の手技、外来でのステロイド漸減方法や合併症の管理、妊娠・出産といったライフイベントに向けた治療調節など様々なことを学ばせて頂きました。特に初期研修後も膠原病の外来管理はわからないことだらけで、病棟業務後も上級医に毎週のように外来予習に付き合ってもらって、丁寧にご指導頂いた経験が現在の礎になつていると感じています。さらに、感染症内科や血液内科、腎臓内科、整形外科など、当科との関連が強い他科を快くローテートさせて頂き、新内科専門医制度の症例集めに大いに役立ったというだけでなく、初期研修の時とは見える景色が大きく異なつていて内科医としての幅を広げるとても貴重な経験でした。

アレルギー・膠原病内科は数ある内科の中でも最も「内科らしい」科の一つであり、それが故に魅力的であると思います。「これがあるから確定診断」というものではなく病歴や身体所見、検査結果を総合的に見て(しばしば直感も味方)に診断する必要があります。さらには、治療についても新たな分子標的薬がここ数年でも次々に登場し、従来難

しかった寛解がより多くの患者で目指せるようになってきていることも非常にやりがいを感じられると思います。同じ疾患でも画一化した治療マニュアルはなく、患者毎の病変の部位や体格、年齢などの違い、退院後の生活や人生にまで思いを馳せつつ「さじ加減」を決めていく奥深さ・楽しさがあり、今後AIが進歩したとしても取って代わられにくい分野であると感じています。加えて、研究と臨床の距離が近く臨床のアンメットニーズが研究テーマになりやすいことも特徴で研究テーマにも溢れています。千葉大学アレルギー・膠原病内科では、千葉県内の関連病院から紹介された重症患者の診療にあたるだけでなく、第一線で臨床から基礎的研究まで幅広い研究を行っている多くの先生がおられ、私は現在大学院生として附属病院と昨年建て替えにより新しくなった医学系総合研究棟を日々行き来し、研修医が始まった頃以来の多くの刺激を受けて生活しています。このような恵まれた環境に感謝しつつ、今後もより良い膠原病内科医を目指して邁進したいと思っております。

千葉大学ゐのはな同窓会 会員の皆様へ

「会員総合補償制度」のご案内

保険期間：2022年3月1日午後4時～2023年3月1日午後4時(中途加入随時受付)



5つの安心で、先生方の日常を しっかりサポート

<p>産業医等業務、刑事弁護士費用も補償可能に！</p> <p>高額化する医療訴訟に備えて</p> <p>支払限度額 ナント...</p> <p>3億/9億</p> <p>対人1事故 保険期間中 23タイプ登場！ 免責金額なし</p> <p>安心1</p>	<p>合計最長7年の長期補償</p> <p>働けなくなった時の</p> <p>収入</p> <p>を補償</p> <p>安心2</p>	<p>先進医療も補償！</p> <p>入院・手術</p> <p>を補償</p> <p>安心3</p>
<p>特定感染症も地震によるケガも補償！</p> <p>日常生活をお守りします</p> <p>安心5</p>	<p>突然の必要に備えて</p> <p>介護を補償</p> <p>安心4</p>	

※パンフレット等資料のご請求やお申込みは、右記取扱代理店までお問い合わせください。中途加入の場合、毎月20日までに頂いたお申込みにつきまして、翌月1日が補償の開始日となります。

【お問合せ先・取扱代理店】
PIONEER 株式会社パイオニア
 Tel: 0120-36-8442 (平日 8:45~18:00)
<https://www.pioneerltd.com>



【資料請求はこちらから】

この広告は医師賠償責任保険、産業医等活動保険、団体総合生活保険の概要についてご紹介したものです。保険の内容はパンフレットでご確認ください。また、ご加入にあたっては、必ず重要事項説明をよくお読みください。詳細は団体代表者の方にお渡ししてあります。保険約款および特約により、ご不明な点は取扱代理店または引受保険会社へお尋ねください。

第16回 ちば Basic & Clinical Research Conference

令和5年2月2日(木) 13:00~17:10 於 むのほな記念講堂 事務局 千葉大学バイオメディカル研究センター内 担当: 坂本
 総合司会 医学部 1年 神尾 真美, 宮野 ひなた 内線7901 sakamoto@faculty.chiba-u.jp 本会はスカラーシッププログラムの
 講義としても位置づけております

13:00 開会の辞

薬理学 教授 安西 尚彦 先生
 学生代表 医学部 1年 林 正之

13:10 学生発表

座長

医学部 4年 岡本 昌大
 同 1年 今永 遥斗

“EBウイルス感染が胃癌で誘導するH3K36me2変化とクロマチン活性化”

分子腫瘍学 3年 澤田 郁悠

“マルコフ決定過程とクラスタリングを応用した患者集団ごとに最適な治療法の解析”

人工知能(AI)医学 2年 神前 政智

“SIP₁を介した制御性 T 細胞による生体恒常性維持機構”

実験免疫学 5年 上野 達矢

“DNAバーコードを用いたEBウイルス胃癌発生における不均一性の解析”

分子腫瘍学 4年 石黒 開

“膠芽腫幹細胞に対する治療戦略の再構築”

脳神経外科学 3年 野口 駿成

“橈骨遠位端骨折における尺骨突き上げの影響—有限要素法による解析”

整形外科学 5年 手計 佑紀

14:50 講座紹介

座長

疾患生命医学 教授 幡野 雅彦 先生

“生活習慣病の共通メカニズムを解き明かす”

疾患システム医学 教授 眞鍋 一郎 先生

“眼科診療の最先端”

眼科学 教授 馬場 隆之 先生

15:40 講評

千葉大学大学院医学研究院長 松原 久裕 先生

15:50 表彰

機能形態学 教授 山口 淳 先生

むのほな同窓会 会長 吉原 俊雄 先生

千葉大学大学院医学研究院長 松原 久裕 先生

16:20 特別講演

座長

整形外科学 教授 大鳥 精司 先生

“若き医学生へ—脊椎外科へのいざない”

劉協医科大学医学部長 整形外科学 主任教授 種市 洋 先生

17:05 閉会の辞

機能形態学 教授 山口 淳 先生

世話人(敬称略)
 徳久剛史 中谷晴昭 中山俊憲 高橋和久 白澤浩 安西尚彦
 中島裕史 大鳥精司 山口淳 木村元子 小野寺淳 坂本明美

学生事務局: 林正之, 松本千広, 宮野ひなた, 今永遥斗, 岡本昌大, 神前政智, 迫井優里子,
 神尾真美, 上野達矢, 松井久和 主催: 千葉大学大学院医学研究院・医学部
 共催: ちば Basic & Clinical Research Conference 事務局, 千葉医学会, むのほな同窓会

追 悼

故 清 水 文 七 先 生 を 偲 ん だ

千 葉 大 学 名 誉 教 授 (分 子 ウ イ ル ス 学)

白 澤 浩 (昭 57)



本 学 名 誉 教 授 (微 生 物 学 第 二) 清 水 文 七 先 生 (昭 33) が 令 和 4 年 8 月 6 日 に 逝 去 さ れ ま し た (享 年 90 歳)。

大 学 在 任 中 に 執 筆 さ れ た 「ウ イ ル ス が わ か る」 は、今 で も 親 し ま れ て い る 一 般 書 で す が、退 官 後 も 倒 れ ら れ る 前 に 2 冊 の 新 書 を 執 筆 さ れ て お り ま し た。著 書 の 中 で、「知 的 刺 激 の 有 る 研 究 者 と し て 大 変 に 満 足 し た が、多 く の 方 々 に 世 話 に な っ た こ と に 氣 づ き、そ の 借 り を 返 す た め に 執 筆 し た い」と、書 か れ て い ま す。倒 れ ら れ る 直 前 に も、新 た な 執 筆 の 意 欲 を 燃 や さ れ て お り ま し た だ け に、残 念 で な り ま せ ぬ。

「知 的 刺 激 の 有 る 研 究 者 と し て 大 変 に 満 足 し た が、多 く の 方 々 に 世 話 に な っ た こ と に 氣 づ き、そ の 借 り を 返 す た め に 執 筆 し た い」と、書 か れ て い ま す。倒 れ ら れ る 直 前 に も、新 た な 執 筆 の 意 欲 を 燃 や さ れ て お り ま し た だ け に、残 念 で な り ま せ ぬ。

生 で あ っ た 私 が、高 見 澤 裕 吉 教 授 (昭 27) の 指 示 で、清 水 先 生 の 教 授 室 の 扉 を 叩 いた 日 を 忘 れ る こ と は あり ま せ ぬ。国 立 予 防 衛 生 研 究 所 よ り 新 任 教 授 と し て い ら した ば かり の 清 水 先 生 に 初 め て お 会 い し、「週 に 数 日 来 て 実 験 す れ ば 良 い と 聞 い て 伺 っ た の で す が」と、今 思 え ば 恥 づ か し い こ と を 述 べ た 私 に 対 し て、先 生 は「そ れ で も 学 位 は と れ る か も し れ ま せ ぬ が、毎 日、実 験 を し た ら ど う で し ょ う？」と お 応 え に な り ま し た。「土 日 も で す か？」と の 馬 鹿 な 質 問 に も 優 し く「はい」と 論 じ て 下 さ い ま し た。振 り 返 れ ば、こ の 日 を 契 機 に 私 の 人 生 は 大 き く 舵 を き っ た の で し た。

清 水 先 生 の 口 癖 は、「読 み・書 き・実 験！」で し た が、そ の 意 味 す る こ と は 深 く、今 で も 私 の 規 範 の 一 つ と し て 重 宝 し て い ま す。大 学 院 生 指 導 の 基 本 方 針 と さ せ て 頂 き ま し た。手 伝 い を し な が ら 拝 聴 し た 清 水 先 生 の ウ イ ル ス 学 講 義 は、私 にと っ て は 目 か ら ウ ロ コ で し た。ウ イ ル ス の 複 製 を、教 科 書 に 記 載 さ れ て い な い 統 一 的 な 概 念 で 見 事 に 教 え て い ら っ し ゃ い ま し た。こ の 概 念 は、後 に ご 一 緒 に 教 科 書 を 執 筆 す る 際 に、図 を

コ ン ピ ュ ー タ ー で 描 い て く れ ま せ ぬ か と 頼 ま れ た も の で、私 自 身 の 講 義 で も 長 年 に わ た り 使 い ま し た し、他 の 教 科 書 に 掲 載 さ れ た り 真 似 さ れ た り す る こ と と な る 画 期 的 な も の で し た。ま た、当 時 は、そ の よ う な 域 に ど の よ う に し た ら 達 す る の か さ え 見 当 も つ き ま せ ぬ で し た が、教 科 書 や 論 文 を 読 ん で も 分 か ら な い 疑 問 を 投 げ か け る と、新 た な 知 識・考 え 方 と 共 に、答 え を 教 え て 下 さ い ま し た。「そ う 考 え れ ば 良 い の か」と、何 度 も 氣 付 か さ れ ま し た。そ の 一 つ の 例 が、「ウ イ ル ス の 身 に な っ て 考 え る」こ と で、教 科 書 に は 書 か れ て い

な い 原 理・原 則 を 導 く 秘 訣 で あ る と 知 り、ウ イ ル ス 学 者 と 単 な る ウ イ ル ス 研 究 者 と は 一 線 を 画 す る も の だ と い う こ と を 悟 り ま し た。紙 面 で は 伝 え 難 い、こ の 特 有 な 思 考 方 法 は、文 学 者 と し て も 著 名 で あ っ た 川 喜 田 愛 郎 先 生 の 門 下 に 受 け 継 が れ た も の で あ っ た よ う で、清 水 先 生 は、川 喜 田 門 下 の 末 っ 子 で あ る と 自 負 さ れ て お り ま し た。天 国 に い ら っ し ゃ る 清 水 先 生 に は 遠 く 及 び ま せ ぬ が、川 喜 田 門 下 の 孫 弟 子 で あ る 私 が 門 下 に 恥 じ な い ウ イ ル ス 学 者 と な る べ く 温 か く 見 守 っ て 頂 く こ と を お 願 い し つ つ、ご 冥 福 を お 祈 り 申 し あ げ ま す。

台 座 に は 有 名 な「私 が 処 置 し、神 が こ れ を 治 し 給 う た」な る 碑 文 が 刻 ま れ て い る (写 真)。床 屋 外 科 医 の 出 身 だ っ た が、そ の 後、四 代 の 国 王 の 外 科 医 と な っ た。銃 創 の 処 置 に 独 自 の 軟 膏 を 作 っ て 処 置 し、頭 蓋 骨 に 穴 を あ け る ト レ バ ン と い う 器 具 を 考 案 し、血 管 結 紮 で 止 血 す る な ど 多 数 の 業 績 を 残 し た。市 内 に は 中 世 の 古 城 ラ ヴ ァ ル 城 が そ び え、そ こ か ら マ イ エ ン ス 川 の 緑 豊 か な 溪 谷 を 見 渡 す こ と が で き る。城 内 は 博 物 館 (一 部 美 術 館) と な っ て お り、奥 に は パ レ 関 連 の 医 療 器 具 や パ レ の プ ロ ン ズ 像 な ど が 展 示 さ れ て い る。残 念 な が ら 筆 者 が 訪 問 し た 際 に は、お 目 当 て の ト レ バ ン は 他 の 博 物 館 に 貸 し 出 さ れ て 見 学 で き な っ た。同 行 の 外 科 の 先 生 に よ っ て、昔 脳 外 科 が 分 化 し て い な っ た 頃 に は、日 本 で も 外 科 医 が 頭 蓋 骨 の 穿 孔 に 使 用 し て い た の こ と だ っ た。パ レ が 書 い た 外 科 書 は オ ラ ン ダ 語 に 翻 訳 さ れ 日 本 に 届 い た が、初 め て の 系 統 だ っ た 西 洋 医 学 書 で あ っ た。1706 年 の 榎 林 鎮 山 抄 訳 「紅 夷 外 科 宋 伝」で あ る。蘭 学 と し て 受 け 止 め ら れ た が、原 著 は ラ テ ン 語 で は な く 俗 語 の フ ラ ン ス 語 で パ レ が 記 述 し た 全 集 で あ る。言 葉 の 壁 を 乗 り 越 え て 学 術 を 伝 え る に は、外 科 絵 図 が 役 立 っ た と 思 わ れ る。抄 訳 を 担 当 し た 榎 林 鎮 山 (長 崎) を は じ め 西 玄 哲 (江 戸)、伊 良 子 光 頭 (京 都)、吉 雄 耕 牛 (長 崎)、花 岡 青 洲 (紀 州) な ど 錚 々 たる 外 科 医 ら に 受 け 継 が れ て 免 許 皆 伝 書 に 取 り 入 れ ら れ た。外 科 の 近 代 化 に 尽 く し た 先 達 の 苦 勞 を し の ぶ に も 当 地 ラ ヴ ァ ル 訪 問 を お 勧 め す る。

欧 州 医 学 史 巡 り

ラ ヴ ァ ル

杉 田 克 生 (昭 54)

ラ ヴ ァ ル と 聞 い て ど こ の 国 に あ り、そ こ で 生 ま れ た 著 名 な 医 師 を あ げ ら れ る 先 生 は 少 な い で あ ろ う。当 地 ラ ヴ ァ ル は バ リ か ら 南 西 に 280 km ほ ど で、ど こ か で 風 光 明 媚 な メ ー ヌ 県 と サ ル ト 県 に ま た が っ て い る。町 の 名 前「ラ ヴ ァ ル」は、古 フ ラ ン ス 語 で「溪 谷」を 意 味 し、こ の 地 域 に 流 れ る マ



没 後 250 年 に 立 て ら れ た パ レ 像

千葉医療センター所蔵の恤兵品

―加藤刀畔と板倉鼎の二作品―

国立病院機構千葉医療センター

院長 森 嶋 友 一 (昭60)

恤兵とは今や死語といってもよいでしょう。「じゅつべい」と読みます。「恤」は「慰める」の意で、簡単にいうと恤兵品は戦地の兵士や傷病兵などを慰める品、慰問品のことです。大山巖が明治27年日清戦争直前に陸軍省に恤兵部を開設するよう発令しています。国民は慰問袋に兵士が喜びそうな手紙、お守り、薬品、タバコ、雑誌などを入れて送りました。女優のプロマイドも喜ばれたようです。陸軍にとつては恤兵金を集めることも大きな目的でした。当院は明治41年千葉衛成

病院にその起源を發します。昭和11年に千葉陸軍病院と名称変更し、敗戦の年12月に国立千葉病院となります。敗戦までの37年間は陸軍の病院でした。千葉陸軍病院に寄贈された二つの美術品についてご紹介します。当院に伝わる恤兵品の一つ目は「獅膽鷹目行以女手」を木板に彫った柱掛けです(図1)。「獅膽鷹目行以女手」は千葉医学のロゴマークのもとになっており、特に外科医の心得として、外科の初代教授三輪徳寛先生が手術室入口ドアの上壁に掲げた言葉です。先頃あ

のはな同窓会から非売品として配られたDVD「千葉大学医学部旧本館85年の記憶」でも大きく取り上げられました。脈々と後輩たちに受け継がれている一つの証左として、当院に伝わるその柱掛けが映像に現れます。感動的で素晴らしいDVDです。ご覧になっていない方は寄付金3000円をお支払いいただき、是非お申し込みください。三輪先生は退官(大正13年)頃から右手が不自由になっていましたが、昭和5年11月に左手で書いた「獅膽鷹目行以女手」の色紙が残っています(図2)。この八文字を木板に彫ったものが当院に伝わる柱掛けです。木板は125・5×10・5cmの大きさで、表面に先生の筆跡のまま八文字が彫られています。作者の



←「恤兵品」の焼印

←「説明書き」

←鈴木による貼紙

図1 「獅膽鷹目行以女手」の柱掛け(加藤刀畔作) 左:表面、右:裏面

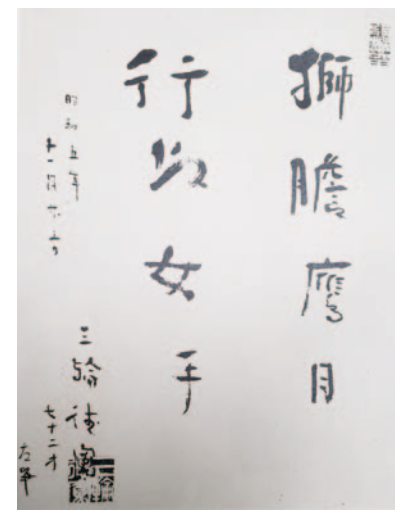


図2 三輪が左手で書いた「獅膽鷹目行以女手」(文献2より)

加藤刀畔(とうはん)は本名智良で、千葉県出身。篆刻家、彫刻家である。道の大家である裏面の説明書きに読めます。問題はその説明書きがかなり破損していることです。今次事変(日中戦争)に際し白衣の勇士(傷病兵)を慰め、さらに戦地における将士(将校や兵士)の辛苦を思いやり、昭和13年秋頃「加藤が」古今名士の書画を柱聯(ちゅうれん、柱掛けのこと)や扁額(へんがく、門や鳥居に掲げられる額、看板)に何点か彫つたと読めます。終わりに、昭和14年1月陸軍恤兵部とあります。説明書きの上方には「恤兵品」の焼印を認めます。

つまり、昭和14年1月頃、千葉陸軍病院に恤兵品として贈られたことは間違いありません。慰問の対象は、入院していた傷病兵のほか、軍医、衛生兵、看護師なども考えられますが、「獅膽鷹目行以女手」の意味からいって、院長を含めた軍医ということになるでしょう。だとすると、しっかりと傷病兵を治療し、戦地に戻れるようにせよと軍医たちに発破をかけたのでしょうか。慰問と「獅膽鷹目行以女手」がなかなか結びつきません。千葉陸軍病院のどこかに保管されていた本柱掛けは、その後、国立千葉病院の医局に置かれていましたが、鈴木五郎初代院長が昭和23年6月に発見し、院長室に掲げた裏面の貼り紙に記載しています。詳細な経緯につきましては、「千葉医学」令和5年の2月号に掲載予定です。

二つ目は、将来を嘱望されながらパリで夭折した天才画家、板倉鼎(かなえ、1901-1929)の「剣のある静物」です(図3)。昭和2年の作品。油彩。キャンバスで、大きさは73×92cmです。板倉は松戸市出身で、県立千葉中学校から東京美術学校(今の東京芸術大学)油絵科に入学、岡田三郎助に指導を受けます。ただ、一旦は医師である父の意向に沿って旧制二高を受験しましたが、白紙答案を提出、画家志望を貫いたようです。大正13年同校卒業、14年に与謝野鉄幹・晶子夫妻の媒酌で、ロシア文学者昇曙夢(のぼり・しよむ)の令嬢、須美子と結婚します。翌15年、夫人同伴でフランスへ留学し、パリではロジェ・ビシエールに師事します。昭和3年、「赤衣の女」(モデルは須美子夫人)で第9回帝

展に入選します。翌年の第10回帝展も「画家の像」(やはりモデルは夫人、夫人も画家でした)で入選。しかし8月末から歯の具合が悪く、歯科通院するも、歯槽膿



図3 「剣のある静物」板倉 鼎:昭和2年作

漏から敗血症となり9月26日緊急入院。3日後に急逝してしまいます。帰国を目前にした、28年の短い一生でした。さて、本作品ですが、鍵穴のある白い机の上、中央に赤いテールクロスが置かれ、引き出し側の一部垂れ下がっています。右上から左下に向かって対角線上には3枚の金色の剣。左上には白い手袋、中央上には黒い扇子。真ん中に3色のバラを生けた花瓶が置かれています。視点は斜め上方から急角度で見下ろすように描かれています。その割に、全体に平板な印象。剣とつながっているのか、鎖が四辺に広がっていて、非

常に安定感のある構図です。色合いも素晴らしきと感じます。板倉にはこの白い机にいろいろな静物を置いて、9点(あるいはそれ以上)の作品があります。いずれも高い視点から見下ろして描かれ、色鮮やかなテーブルクロスがポイントになっています。板倉のお気に入りモチーフなのでしょう。

倉鼎・須美子展」に貸し出されています。この絵の裏には、寄贈者と書かれた板倉の父の名刺が貼られており、恤兵と判読される紙切れがこびりついています。松戸市教育委員会の年譜によると、「昭和16年3月18日、陸軍病院の傷痍軍人を慰めるために病院内に絵画をかけた」という軍の希望で、傷痍軍人慰問美術家連盟が中心となって著名な画家に働きかけたところ板倉の父が「剣のある静物」を含む2点を寄贈することになり、その手続きをとった」と、三井

意図があったのでしょうか。どんな意図があったのでしょうか。また板倉家所蔵の「剣のある静物」も存在し(別ヴァージョンか?)、見比べると、花瓶の模様が当院のものの方が複雑なこと、白い薔薇の花ビラの形状が異なること、葉数が多いこと、テーブルクロスの折り目が若干違うことなど微妙な差異を認めました。いずれにせよ、2枚とも仕上げられており、どちらかが習作というニュアンスはないように思います。これまで本作品は、昭和55年千葉県立美術館主催の「美に生きた永遠の青春―板倉鼎展」および平成27年松戸市教育委員会主催の「よみがえる画家板

倉鼎・須美子展」に貸し出されています。この絵の裏には、寄贈者と書かれた板倉の父の名刺が貼られており、恤兵と判読される紙切れがこびりついています。松戸市教育委員会の年譜によると、「昭和16年3月18日、陸軍病院の傷痍軍人を慰めるために病院内に絵画をかけた」という軍の希望で、傷痍軍人慰問美術家連盟が中心となって著名な画家に働きかけたところ板倉の父が「剣のある静物」を含む2点を寄贈することになり、その手続きをとった」と、三井

ある剖検記録

三輪徳寛、東京三輪徳寛伝記編集
3. 森 博志、(2004) 一枚の絵「剣のある静物」、千葉：千葉医療センター誌40、7-10
4. 板倉弘子、(2018) 板倉鼎 その芸術と生涯、千葉：

石出猛史(昭52)

三好企画
5. 重田みどり、(2017) 板倉鼎・須美子展に当院所蔵の「剣のある静物」が出品されました、千葉：千葉医療センターニュース66、8-9.

被検者は米国人で白人男性。氏名はハーヴェイ・クッシング Harvey W. Cushing (1869-1939)。米国の著名な神経外科医で、「クッシング病」の発見者である。またウィリアム・オスラーの評伝を著して、ピューリッツァー賞を受賞した。ボストンのピーター・ベント・ブリガム病院の外科部長を勤めていた当時、62歳で二例目の脳腫瘍の手術を行った。外科部長を定年退職後はエール大学の神経学教授を勤めた。1939年10月4日持続する耐え難い胸痛と繰り返す嘔吐のために入院したが同7日に死亡した。クッシングの病理解剖を行ったツインマンマン H.N. Zimmerman 医師が、1969年に神経学雑誌にその

剖検記録を公開した。直接の死因は急性心筋梗塞である。剖検診断は全身性動脈硬化症であるが、大動脈・総腸骨動脈・冠状動脈・脳動脈で顕著であった。大動脈弓から粥状動脈硬化と潰瘍化が著明で、腹部大動脈から総腸骨動脈・内腸骨動脈に至るまで、新旧血栓が詰まっており、腹部大動脈の一部が完全に閉塞していた。クッシングは50歳代で間歇性跛行を発症しており、趾先の壊死で入院したこともある。晩年は車椅子を用いていた。脳には梗塞がみられた。クッシングは第一次世界大戦(1914-1918)に軍医としてヨーロッパに従軍中、複視と両側性顔面筋力の低下、四肢の知覚鈍麻と反射の低下がみられた

ために2カ月間入院した。自身で脳脊髄神経炎と診断している。これらの症状は完全に回復することはなかった。心臓は肥大大があり、重量は494gであった。大動脈弁・僧帽弁には目立った病変は見られなかった。冠状動脈はいわゆる三枝病変で、左前下行枝は全体に50%の狭窄を呈し、回旋枝は半ばから完全閉塞し、右冠動脈は90%の狭窄で器質化した血栓もみられた。ツインマンマン氏の記述によると、クッシングは生前労作性狭心症、心不全の既往がなかったという。現在正式な病名とは認められていないが、いわゆる虚血性心筋症のような病態であったのだろうか。1935年に「外科医の日記」を執筆刊行し、亡くなる前年にはこれまでの集大成といえるべき脳腫瘍に関する大部の論文を出版している。動脈硬化の重篤さにも驚くが、それにも拘らず晩年になっても知的活動が衰えなかったことはさらに驚異といえる。

冠状動脈硬化 米国の研究では、早期から冠状動脈硬化がはじまっていることが報告されている。Korean Soldiers Reportは、朝鮮戦争(1950-1953)当時戦死あるいは事故死した若い兵隊(平均22・1歳男性)300例の剖検報告である。77%で冠状動脈硬化がみられた。但し戦死した若い韓国軍兵士の同様の剖検報告では、冠状動脈硬化はみられなかった。米国では他にも朝鮮戦争時に戦死した若い兵隊の別の剖検報告、ベトナム戦争で戦死した若い兵士の剖検報告、米国で事故死した若者の剖検報告がみられる。これらの4つの報告では、冠状動脈硬化所見は45-77%、50%の狭窄が19-21%で、75-90%の狭窄が5-9%でみられた。頻度に幅はあるものの、20歳代でも労作性狭心症がおこりうることを示しているものである。

アテローム 動脈硬化は4型に分類される。臨床的問題になるのは、主に粥状(アテローム性)動脈硬化である。模式図では内皮細胞内の脂肪の固まりとして描かれている。通俗的な解説では、炎症や予り応力で傷害された内皮細胞の細胞膜から、LDLコレステロールが流入してとある。コレステロールのような大きな分子が流入するのなら、グルコースや電解質も流入

して、細胞内環境を保てないであろう。乱暴な説明のように思われる。核膜やミトコンドリア膜と異なり、細胞膜は脂質中にコレステロールが占める割合が大きい。L型(被膜を持つ)細菌は培地中のコレステロールを細胞膜に取り込むことが知られている。現在バイオセンサーによる蛍光イメージング法を用いて、細胞膜のコレステロールをリアルタイムで測定できる。最近の論文に、血管内皮細胞の培養実験で、細胞質に面した細胞膜から小胞化されたコレステロールが、細胞質に落ち込むという現象の報告があった。筆者には、こちらの方がアテロームの形成に関係しているように思われる。

内皮細胞内の脂質にマクロファージ・平滑筋細胞などが遊走し、線維被膜で覆われている図は異物として処理されているようにも見える。米国の調査では、3歳以上の子どもの大多数に粥状硬化の一種である、脂肪線条(fatty streak)が見られるという報告がある。早期からの予防が必要であるという点であろうか。

参考文献

- 1. 押田信子、(2021) 抹殺された日本軍恤兵品の正体 東京：扶桑社
- 2. 鈴木要吾編集、(1968)

DUU-SYS

新型コロナウイルス発熱外来で

ITツール「DUU-SYS」の活用を

どうたれ内科診療所 堂 垂 伸 治 (昭60)

〈始めに〉

この原稿は22年10月初旬の知見に基づいて書いています。新型コロナウイルス感染症(以下「コロナ」)が発生して3年近くになります。現時点での感染者数は2100万人以上、死者数は4.5万人以上です。これは日露戦争の戦死者数5万6千人に迫る人数です。22年末〜冬期に新型コロナウイルス等の感染がどうなるのか不明ですが、臨床医としては「万全を期して臨むべき」と考えています。

これまで感染者数が急増すると、医療・保健所・発熱外来・救急搬送が逼迫し自宅療養者が溢れる事態が繰り返されてきました。これらを「守る」ため、国民に強制や注意喚起が行われてきました。国民各層は皆苛立った日々を過ごしてきました。その不満の矛先が医療制度や医療界全体に向けられる恐れがあります。

第7波では22年8月に全

国で最大200万人の自宅療養者が出ました。「自宅死」も増え、第5波の21年8月に250人、第6波の22年1〜3月には555人、22年8月には「全国で869人、過去最多」と報道されています。孤独死も1.5倍と言われ、「コロナ関連死」も含めると超過死亡が多数あると推察されます。

しかし、コロナ禍ではこの仕組みを活用せず、保健所中心のスキームとなつていきます。感染当初の小規模流行「クラスター対策」では、このスキームは有効だったかもしれませんが。しかし大規模流行には追いつけていません。

保健所の本来業務は、地域でのマクロな保健、パブリックヘルスを担うことであり個人の健康管理は荷が重すぎます。保健所に、自宅療養者個々の病状把握や入院判断を任せるとはそもそも無理があります。

〈DUU-SYSの発端〉

21年6月、たまたま「コロナで急激に重症化する父」と題するTVニュースを見ました。この重症化した人は何と私の旧知の方でした。早速電話連絡をとりました。

彼はこの闘病状況を所属している「技術経営士の会」で講演しました。この会は日本の基幹産業で技術者兼経営陣として活躍した方々の集まりです。会場から「コロナ感染者として放置され亡くなりかかったのはおかしい」という声が上がりました。その流れで彼から私に「何とかしよう」と相談されました。私も同じ認識でしたので「皆さんがご持ちの技術や知識で何とかできないですか?」と返ししました。これがDUU-SYSの出発点です。

〈HER-SYS〜MY HER-SYSの問題点〉

HER-SYSと患者情報のMy HER-SYSには多くの問題がありました。

①感染者の情報収集や入力作業が極めて煩雑でした。

②医療機関が「健康観察」画面にアクセスしづらく、「入力したら患者さんは手を離れる」が実態でした。

③保健所職員が「観察」しても、スコア判断に頼るだけで実際の病状と乖離があったのではないかと考えます。

〈DUU-SYSの紹介〉

DUU-SYSは21年後半からZoomを介してIT技術者とのやり取りを繰り返しました。21年末に原型ができ、第6波開始後バージョンアップも行いました。

以下、DUU-SYSについて図で説明します。

①Googleマインドライブから共有アイテムを開きます。共有アイテムのDUU-SYSを選択します。DUU-SYSは5枚のファイルからできています。

②QRコードを読み取ったスマホには「患者情報登録画面」が表示されます。これを記入し送信してもらうと「DUU-SYSの「メール配信システム」(図2)に患者さんの名前・アドレス等が自動的に登録・表示され

ます。そして、左の各欄にチェックして「メール送信」すれば各患者に次に示す「質問票」などを一斉配信できます。この「配信システム」は患者さんと計4種類のやり取りが可能な対話型のシステムです。

④(図3)は患者さんの病状を問う「質問票」です。観察期間中、毎朝配信し患者さんに回答してもらいます。

⑤「質問票」の回答結果は、やはり自動的に(図4)の「スプレッドシート」に「一覧で表示されます。患者さんの体温、症状、重症の症状、酸素飽和度や訴えが一目でわかり、病状把握が可能です。〈DUU-SYSのルーティン・ワークは簡便〉

③QRコードを読み取ったスマホには「患者情報登録画面」が表示されます。これを記入し送信してもらうと「DUU-SYSの「メール配信システム」(図2)に患者さんの名前・アドレス等が自動的に登録・表示され

ます。そして、左の各欄にチェックして「メール送信」すれば各患者に次に示す「質問票」などを一斉配信できます。この「配信システム」は患者さんと計4種類のやり取りが可能な対話型のシステムです。

〈現状の制度的な課題〉


介護保険開始後20年以上、現場では地域包括ケアを脈々と築きあげてきました。医療・介護・福祉が連携して地域住民を支える仕組みを実践してきました。

どうたれ内科診療所から新型コロナウイルス患者さんへ

当院では、新型コロナウイルス感染者さんに対して、「健康観察・病状管理」を行っています。それは、毎日(朝)に当院のPCから専用のスマホ(またはPC)に高い画質で「質問票」をお送りし、回答していただくものです。なお本システムには補綴する保健所からの指示に基づいて行動されて下さい。この情報は当診療所のみで使用するもので、本日の以外には使用しません。あなたのカルテ番号は「」です。

A オンラインによる健康観察・病状管理のご案内

I. スマホをお持ちの方へ。下のQRコードをスマホで読み取ってください。



II. 上記1ができない方へ

当院ドキュメント「[健康観察・病状管理のご案内](#)」を「空メール」をお送りください。その際必ず「自分の名前」と「上記のQRコード」の二つを記載してください。当院まで届かぬメールアドレスが届いた方には、朝の7時から、折り返し当院のアドレスをお送りします。

III. 皆さまは当院からお送りする質問票のアドレスをクリックしてご回答ください

回答結果は当院のPCに一覧表が表示されます。皆様の病状を把握し安心と安全を支えるものです。なお皆様はその回答結果の一覧表はご覧になれません。特に心配な方には別途医師または看護師が直接電話でご相談いたします。ただし、全てのご質問にお答えすることを断念しないでください。

B. 電話による健康観察・病状管理のご案内

上記Aが不可能な方には、当院から別途(原則1日1回午前中)当院から電話連絡し病状把握を行います。

※(特例)自宅療養の場合:「発症日から10日間経過し、かつ症状軽快後72時間経過した時」には「健康観察」が終了します。しかし、システム上の都合により、入力には「経過しました」を入力し、入力後10日間経過後10日経過します。詳細は保健所からの連絡があった場合にご確認ください。

2022年8月3日(火) どうたれ内科診療所 院長 堂垂伸治
〒270-2201 柳川市常盤平4-20-3 TEL 047-304-0600 FAX 047-304-0610
メールアドレス doutare@pricocctn.ne.jp URL: <http://www.doutare.com>

図1

2.メール配信システムVer2.4(どうたれ内科診療所)

メール配信日時	メール配信先(患者)	メール配信先(医師)	メール配信先(看護師)	メール配信先(その他)	配信状況	配信時刻	配信内容	配信結果
2022/10/06	20759	89	221066	221066				
2022/10/07	23030	36	221065	221067				
2022/10/07	19602	67	221065	221067				
2022/10/06	6656	72	221062	220664				
2022/10/04	9434	30	221064	221064				
2022/10/04	25039	53	221064	221064				
2022/10/03	19604	36	220929	221063				
2022/10/03	22056	26	221062	221063				
2022/09/29	23003	49	220928	220929 10:00:00				
2022/09/29	23004	22	220926	220929 10:00:00				
2022/09/28	81644	84	220926	220928 10:00:00				
2022/09/26	476	62	220926	220926 10:00:00				
2022/09/26	23787	66	220924	220926 10:00:00				
2022/09/26	23788	51	220925	220926 10:00:00				
2022/09/26	23786	16	220922	220924 10:02:17				
2022/09/23	23780	28	220921	220922 10:01:00				
2022/09/23	6818	64	220921	220922 10:01:00				
2022/09/22	22949	49	220920	220922 09:30:17				
2022/09/22	23792	66	220920	220922 10:02:17				
2022/09/22	3040	71	220921	220922 10:01:17				
2022/09/21	21902	44	220919	220921 09:27:00				
2022/09/21	21902	66	220919	220921 09:28:00				
2022/09/21	23788	25	220920	220921 09:30:17				
2022/09/21	23787	25	220920	220921 09:27:00				
2022/09/21	23784	47	220917	220921 09:28:17				
2022/09/18	23777	67	220914	220918 09:23:00				
2022/09/16	21635	64	220914	220916 09:23:00				
2022/09/16	23776	67	220915	220916 09:24:00				
2022/09/16	23775	37	220915	220916 09:24:00				
2022/09/16	23770	63	220913	220916 09:22:17				
2022/09/15	23774	48	220913	220916 09:22:17				
2022/09/15	1806	67	220914	220916 09:23:00				

図2

学生教育

第12回東日本研究医養成コンソーシアム

「夏のリトリート」開催

令和4年8月20日、21日
於…京成ホテルミラマール

岡本昌大(医4)

令和4年8月20日、21日に京成ホテルミラマールにて、第12回東日本研究医養成コンソーシアム「夏のリトリート」を開催致しました。本会は医学生との研究マインドの涵養と他大学との

医学交流を主な目的として、千葉大学を含む4大学で立ち上げられました。12回目を迎えた今年は本学が主幹になり、11大学から計135名(含学生)の学生と教員が参加されました。

学生発表(口頭発表10演題、ポスター発表33演題)はどの発表も研究内容の深さと興味を引くものであるだけでなく、学生同士の活発な質疑応答も行われて大変刺激を受けました。

特別講演では小野寺淳先生(国際高等研究基幹准教授)、大野博司先生(理学研究所生命医学研究センター副センター長)からそれぞれ、医学研究のキ

れました。

最後になりますが、熱心にご指導くださった田中知明先生(分子病態解析学教授)、坂本明美先生(バイオメディカル研究センター准教授)、木村元子先生(実験免疫学教授)、また千葉大みらい医療基金からの支援にご快諾くださった松原久裕先生(医学研究院長・医学部長)、大島精司先生(整形外科教授)をはじめ多くの方々のお力添えがなければ開催は叶いませんでした。心より感謝申し上げます。

写真右から

前列…北島真綾(医2)、神津隆之介(医3)、長谷川宙希(医3)、中野翔(医4)、坂本明美先生(昭62)、田中知明先生(平4)、岡本昌大(医4)、神前政智(医2)、古木直人(医6)、齊藤雅雅(医2)
後列…松本千広(医1)、宮野ひなた(医1)、林正之(医1)、津山萌香(医1)、渡辺真由(医2)、塩山詩乃(医3)、今永遥斗(医1)、手計佑紀(医5)、丹後雄統(医4)、松井久和(医1)



2022年度 東日本研究医養成コンソーシアム
第12回 夏のリトリート in 千葉

第11回東日本研究医養成コンソーシアム 「夏のリトリート」講演特別賞を受賞して

本庄唯意(医6)



この度、東日本研究医養成コンソーシアム「第11回夏のリトリート」にて講演特別賞を賜りましたこと、心から感謝申し上げます。

毎年夏に開催され、東日本の医学部間で研究発表や情報交換を行う同会では、「シトクロム」を標的とした新規プライマー設計により明らかとなったロイコチトゾーンの遺伝的多様性について発表しました。ロイコチトゾーンは、鳥類でマラリアを引き起こす原虫に近縁な病原体であり、特定の鳥類種に対して高病原性を示す原虫種が存在するため、野鳥保護・家禽生産の観点から重要な寄生虫です。本原虫の系統分類は、ミトコンドリアDNAにコードされているシトクロム遺伝子の一部領域をPCRによって増幅することによって行われます。しかし、私

達は従来のPCRプライマーでは検出されないロイコチトゾーンの系統が存在することを発見しました。そこで、新規にPCRプライマーの設計を行い、その有用性を評価しました。医学部の研究課題としては珍しい、寄生虫に関する発表ということで、馴染みがない聞き手が多いことを意識し、誰が聴いても分かりやすい発表になるよう、指導いただきました。その結果、多くの人の興味を惹き、活発な議論ができました。

私は3年次より感染生体防御学分野にて、様々なマラリア近縁原虫を用いた実験に挑戦させていただきました。どの実験も魅力的で楽しく、学会発表や論文執筆等の貴重な経験もでき、非常に充実した研究生活を送る事ができました。これらはひとえに、彦坂健児准教授、坂本寛和特任助教をはじめ感染生体防御学教室のスタッフの方々の熱心なご指導の賜物です。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

感染症の基礎研究は、その成果が治療や感染防御に直結するという点で非常に重要で面白いものだと実感しており、今後も継続して取り組みたいと考えています。ここで学ばせていただいた実験手技や論文執筆の経験は、今後必ず研究医として、人々の健康に貢献できる研究に繋げていきたいです。

賞状

講演特別賞

千葉大学医学部
本庄唯意 殿

あなたは東日本研究医養成コンソーシアム第十一回「夏のリトリート」に於いて右の通り優秀な成績を収めました。よってその栄誉を讃えここに賞します

令和三年八月二十九日
東日本研究医養成コンソーシアム
主幹 横浜国立大学医学部
高橋秀尚



第13回日本プライマリ・

ケア連合学会学術大会

学生セッション活動報告部門

最優秀発表賞

受賞の感想

中 熊 日奈子 (医6)



第13回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会が、パシフィコ横浜にて6月11日、12日の2日間にわたって開催されました。私は、12日の学生セッションにおいて「新型コロナウイルス流行下におけるGeneral Medicine Interest Group」の役割と教育効果」という演題でポスター発表をさせていただきました。活動報告部門で最優秀賞を賜りました。学会への参加自体が初めてであり、当初は緊張しておりましたが、このような栄えある賞を賜りましたこと、大変嬉しく思います。また、プライマリ・ケアに関する様々な企画やセッションを通じて他大学の先生方や医療系学生の方々と交流を深めることができ、大いなる刺激を受けた2日間となりました。



今回の発表では、私が副代表を務めておりました学内の総合診療勉強会サークル「General Medicine Interest Group」(以下GMIG)に関する活動報告をさせていただきました。GMIGは臨床推論能力向上を目的とした学生主体のサークルであり、医学部5、6年生を対象に、レクチャーやディスカッションを通じた問診や身体診察の技能向上に取り組んでおります。近年、新型コロナウイルスの蔓延に伴い、臨床実習における問診や身体診察の機会が減少したことによる苦手意識が学生間で生じているという状況下で、GMIGはどのような教育的役割を担っているのかに関する考察を発表の主軸に据えました。参加者の学生にGMIGの授業開始前と全授業終了後にアンケートを実施したり、得られた結果に対して統計的処理を行ったりするのは大変な作業でありましたが、多くの方々のご指導のおかげで、無事ポスターを完成させることが出来ました。改めて、サークルの運営から今回のポスター発表に至るまで親身なご指導を賜りました、千葉大学総合診療科の生坂政臣先生、医学教育学の伊藤彰一先生、また総合診療科の鋪野紀好先生に厚く御礼申し上げます。学生生活も残りわずかとなりましたが、充実したものに出来るよう引き続き邁進して参りたいと思います。

学 内 情 報

亥鼻祭2022開催のご報告

2022年度亥鼻祭 実行委員会サークル
実行委員長 医学部3年 中山 哲 志

令和4年11月6日、亥鼻祭2022が亥鼻キャンパスにて開催されました。新型コロナウイルスの影響により、一昨年はClusterを利用したバーチャルアリティでの開催。昨年はYouTubeライブによる配信形式での開催となっており、実に3年ぶりの現地開催となりました。天候にも恵まれ、今年はいそいそと多くの皆様にご来場いただきました。ご来場の皆様からも非常に好評でありました。また、午後1時からは千葉大学大学院看護学研究科教授・附属看護実践・教育・研究共創センター長である和住淑子先生と看護学部の学生数名による、国立大学唯一の看護学部をテーマにした座談会が行われました。本学看護学部に関する深掘りトークは中高生を中心に多くの観客の方の注目を集めました。



の観客が詰めかけました。看護学部棟でも多くの企画が行われ、応急救護体験や小さな子供向けの医療体験など、医療系キャンパスならではのアカデミックな企画をご覧いただきました。受験生向けの企画も非常に好評で、キャンパスツアーは募集開始から数日で定員が埋まり、受験相談会に關しましても当日枠が午前中にはすべて埋まり、受験生からの注目の高さがかがえました。

今年度も多くの先生方、企業・団体様のご寄付・ご協賛に支えられ、無事亥鼻祭を開催することができました。来年度以降もより良いものを作っていけるよう努力してまいりますので、引き続き亥鼻祭の成長を見守っていただければ幸いです。

学 長 表 彰

- 令和3年度 医学部受賞者 成績優秀賞 高原 彩佳 (医6)
 - 課外活動賞 山田 健二 (医6)
 - 医学部山中寮診療補助グループ 奥間 政人 (医5)
 - 竹田 周平 (医3)
 - 学術研究活動賞 岡本 昌大 (医4)
- (学年は令和4年3月現在)

るのほな同窓会支援 第13回 白衣式 祝辞

令和4年11月22日(火) 於るのほな記念講堂
るのほな同窓会長
吉原 俊雄(昭53)

るのほな同窓会を代表して、白衣式に臨まれる学生の皆さんに一言お祝いを述べさせていただきます。

白衣式は、これまで多くの先生方から基礎医学・臨床医学を学び身に付けた知識を活かして、student leaderとして病院の臨床実習に入る一つの大きな節目となります。病院における実際の診療活動を経験し、患者さんとも直接接する機会が始まります。つまり将来の優れた医師、研究者になるための助走とも言えます。本日は皆さんとご臨席いただいたご家族の皆様にお祝いの言葉を述べると共に、同窓会の事業の一端もご紹介したいと思います。「白衣式」をはじめ、研究発表

の場である「ちばBCRC」[解剖実習における白菊会]など多方面にわたり学生さんへの支援を続けています。本年は旧医学部本館の歴史を振り返り、将来の発展の礎とするため、NHKドキュメンタリー制作スタッフと共に、資料収集を行い、50分の記録DVDを作製しました。ナレーションにはお二人の俳優、お一人は草刈正雄氏にお願いしました。多くの反響を頂きました。

日本館は昭和11年竣工、12年に病院として開院、当時東洋一の病院とされました。世界的な軍縮の中、軍事費の一部が病院建設に回ったとも言われ、同時期に国会議事堂、東京国立博物館が建設されています。



【写真提供：フォトチョイス】

歴史的なこの建物は閉館となり、学生のみなさんは新しく建設された医学部棟、新しい病院施設にあるICU、放射線施設での実習なども体験することになります。同窓会は、さらに各都道府県の支部支援、日本中で活躍する同窓との情報共有とネットワークを構成しています。

2024年に千葉大学医学部は開設150周年を迎えます。千葉医学China Medicineの伝統は「すぐれた臨床医の輩出」であり、そして優れた基礎医学系教室と臨床医学系教室の垣根を超えた協力により、臨床のレベルアップをしていくのが本学の特徴です。是非、病院において意義ある臨床実修を実現して、卒業や国家試験に向けて充実した学生生活を送ってください。皆さんが将来、臨床医、研究者、教育職あるいは医療行政に関わる素晴らしい医師になることを願って、私のお祝いの言葉とさせていただきます。今後の活躍を期待しております。



【写真提供：フォトチョイス】

課外活動団体だより

第41回関東医学部予科学生弓道大会報告

主将 財津 未来(医3)

いまだ新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう状況下のため、第41回関東医学部予科学生弓道大会は、9月19日(月)にオンラインで開催させていただきました。このような状況の中、大会が開催できましたのも、ひとえに多くの方々のご支援とご協力のおかげでございます。皆様に厚く御礼申し上げます。

結果

団体戦
3位 千葉大学(60射27中)
(山田彩日、三木菜那花、尾高由展、鈴木快昂、宮館祐輝)

個人戦(女子)
1位 山田彩日(12射7中)、4位 三木菜那花(12射5中)

個人戦(男子)
5位 宮館祐輝(12射6中)

主管校 千葉大学、参加大学 慶應義塾大学、自治医科大学、千葉大学、



会員から

るのほな同窓会支援

第47回「るのほな美術展」

—千葉大学医学部OBによる美術展—

令和4年9月12日～9月18日

橋本英明 (昭45)

コロナの収束が認められない状況下、今回も積極的な広報を控えました。その為もあり出品者の友人、家族など来館者は少数でした。今回は衰退傾向にある「るのほな美術展」の今後の運営に関して話し合う必要があり、千葉大学るのほな同窓会吉原俊雄会長にご来館いただきました。現在、当美術部は部員が高齢化し会員数が減少する一方、新たな部員の加入がないという

大問題を抱えております。現在活動している部員は7人で出品数も減る傾向にあります。そこで、皆で話し合った結果、次のように方針が決まりました。
・役員を入れ替え、会の復活を企てる事
るのほな同窓会長をはじめ同窓会役員の方々にもご協力いただくことになり、若い人材を発掘します。
・OB以外にも声をかけ出す。



名前左から：野口真利 (昭40)、菅ヶ谷純弘 (昭45)、吉原俊雄るのほな同窓会長 (昭53)、宮下久夫 (昭38)、吉川廣和 (昭40)、橋本英明 (昭45)、島田哲男 (昭41)、

出品作品



ムーランルーージュ (野口真利)



芦ノ湖 (榎本貴夫)



貴婦人の午睡 (橋本英明)



人物習作 (島田哲男)



瀬戸川三景A「鮎とり」(菅ヶ谷純弘)



静物B (吉川廣和)



梅雨空 (宮下久夫)

品数を増やす事
・絵画に限定せず、写真や工芸などの出品も募る事
「るのほな美術展」は、銀座という得難い場所です。長く開催されてきました。母校の存在感を芸術という観点から世に知らしめる事も

意味があるように思われます。なんとか存続させていきたいものです。

NPO小象の会 理事長
篠宮 正樹 先生 (昭50)

ニッポン放送ラジオ (AM1242 FM93)

「阿部亮のNGO世界一周！」(20分間)に出演。

第1回 令和5年1月2日(月)

21:30 活動紹介

第2回 令和5年1月9日(月)

21:30 糖尿病について

命の不思議と生命の精妙さを説き、自尊感情を高めて生活習慣病を予防する活動に、司会の安倍亮氏から共感を戴いた。(篠宮正樹)

JR東京駅で人命救助！
救急科・石田医師が表彰されました

救急科の石田茂誠医師(平25)が、JR東京駅で心肺停止状態の傷病者を、迅速かつ適切な心肺蘇生処置で救助し、丸の内消防署と警察署より表彰されました。「突然のことで、助けなければ！と必死でした。蘇生できて本当に良かったです」(石田医師)。



表彰状を手に記念撮影に依る石田医師(前列中央)

(いのはなハーモニー 66号より転載)

栃木県のはな会 令和4年 第19号

とちぎ むのはな

令和4年 第19号



栃木県のはな会
千葉大学医学部のはな同窓会栃木県支部

とちぎ むのはな 第19号

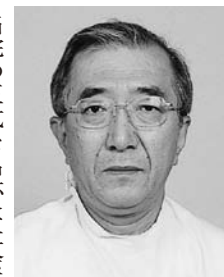
目次

巻頭言	十川 康弘 (昭55卒)	1	
会計報告	令和3年 会計報告	森本 直樹 (平3卒)	3
	監査報告	戸邊 豊純 (平1卒)、齋藤弘司 (昭43卒)	3
総会	令和3年度 栃木県のはな会 総会プログラム		4
追悼記	坂田早苗先生を偲ぶ	十川 康弘 (昭55卒)	5
	伴印刷株式会社 伴 清 様		6
関連病院より	今年の済生会病院	戸邊 豊純 (平1卒)	7
	自治医科大学近況報告 つかみんぐ®	川平 洋 (平4卒)	8
	上都賀総合病院の現況報告	安藤 克彦 (昭60卒)	10
	とちぎメディカルセンターしもつがの近況	北林 宏之 (平12卒)	12
トピックス	中山市明記念館の紹介	崎尾 秀彰 (昭44卒)	14
	当科の前立腺癌診療最前線	戸邊 豊純 (平1卒)	15
エッセイ	SNSのこと	吉住 博明 (平11卒)	18
	経井沢について	大戸 忠幸 (平8卒)	19
	「想い出」	星野 穂 (昭43卒)	21
	学会の思い出	石塚 満 (平3卒)	22
	人生の縮図	平澤 雄一 (平8卒)	24
	2022年コロナ禍での正月	本多 陸人 (昭42卒)	29
	同窓生からの年賀状 (80歳、母校への思い)	本多 陸人 (昭42卒)	31
表紙写真・編集後記			33
会員名簿			34
栃木県のはな会 会則			37

先生(千葉大1948)愛弟子の故石崎省吾分なるご支援のもとに

1976年に退任され、1982年には勲一等瑞宝章を授与されています。2005年に94歳で逝去されました。

中山恒明先生の経歴は1910年に東京神田にて出生し、旧制新瀨高等学校卒業後に千葉医科大学に入學、1934年に卒業しました。瀨尾外科(第二外科)に入局し、1947年に36歳の若さで2代目教授になりました。1965年から東京女子医科大学の客員教授ならびに消化器病・早期癌センター所長として招聘され、1976年に退任されました。1982年には勲一等瑞宝章を授与されています。2005年に94歳で逝去されました。



中山恒明記念館の紹介

崎尾 秀彰 (昭44)

2021年4月に東京女子医科大学消化器外科主任教授の山本雅一先生(筑波大1981年卒)が院長に就任しました。長期間、消化器病センターと財団法人中山がん研究所で保管されていた資料などを当院に記念館を設けて開示することになりました。手術式の工夫や手術器具の開発にも注力され、有名な中山式胃腸吻合器なども展示されています。趣味の絵画や彫刻など足跡を辿り、往時を偲んでいただければと思います。記念館は当院の東側に隣接するMSCビル2号館1階にあります。

中山がん研究所から「中山恒明先生の軌跡 人生は経験である」が昨年出版されました。表題の名言を始めとする幾多の語録や、医局に張り出されていた第一条の「手術は無理しない事」から第九十二条の「汎発性腹膜炎の患者には腹壁の両側及び正中線にドレーナージを行う事」までの「教室憲法」も紹介されています。出生時からの年代記も時代背景とともに詳細に記載されています。ご一読したいときはご連絡いただきたく存じます。当院を「中山会」と呼称する経緯も含め、中山恒明記念館について紹介させていただきます。ご来館お待ちしております。(とちぎのはな 令和4年第19号より転載)

中山恒明記念館
DR. KOMEI NAKAYAMA MEMORIAL MUSEUM

社会医療法人 中山会 宇都宮記念病院

同窓会員著書の紹介

大岩孝司(昭47)、鈴木喜代子著

プライマリ・ケアに活かす

がん在宅緩和ケア

診断と治療社 定価 4500円(税別)



アの全人的苦痛を受け止めた全人的ケア、つまり、病いに対するケアという本質は全く同じです。

医療人類学では、病気は生物学的異常を意味する疾患と疾患に関わる身体的心理社会的苦しみの表現である。病いから構成される包括的概念とされています。緩和ケアの医療としての実践は、疾患があることで生じる、病いに対するケアが基本です。

プライマリ・ケア連合会のホームページの一般向けのメッセージでは、「(前略)症状のある臓器だけを治療しても本来の問題は解決しません。そのような際、身体と心、社会的背景などを総合的に診療することが必要とされます。」と、病気の治療における、病いに対するケアの重要性を強調しています。このプライマリ・ケアの精神と緩和ケ

り、痛みなどの症状緩和にも大きな力になります。

本書は、多くの事例を基にした若い医師との対話という形式をとっています。

その結果、緩和ケアが、病いに対するケアであり、医療実践はナラティブ・アプローチが基本であること、さらには生活に根ざした医療を実践しているプライマリ

野口眞利(昭40)著

「ノグチ式筋活」発刊について

(株)幻冬舎メディアコンサルティング

定価 1540円(税込)

野口 眞利(昭40)



「早く歩かせること」が重要視されています。

しかしながら晩年膝を痛めてしまうことも多く、膝は糖尿病の墓場とも指摘されています。

そこで筆者は膝にやさしいからだの全体の筋肉を活用した方法を永年模索してきました。

はじめは15年前に始めた「立つて行う」早朝の公園での筋トレ体操で、今も50名位で行っています。その後

リ・ケアの日常診療の延長上にあることを、分かり易く表現できたのではないかと考えています。

拙著が、現在の、そして5年後、10年後の日本の緩和ケアがより普及・充実することに、ささやかでもその役割を果たせたらと願っています。

トレイナーによる「臥位で行う」マット筋トレ、そして加圧トレーニングを始めました。そして、これらを「お布団体操」としてまとめたのが、この本になります。

外来患者に於いて、若年層には会社の悲惨な勤務からくるストレスや不眠に加えて運動不足・食の乱れのため体調不全(これがミトコンドリア不全)に陥っている人が多い。

また、中高年層に於いてはフレイル予備軍が増えつつあります。

何れに於いても短時間で手軽にできるトレーニングが必要なのであります。本書の運動理論の背景に

The 119th Annual Meeting of the Japanese Society of Psychiatry and Neurology

第119回日本精神神経学会学術総会

会期 | 2023年6月22日(木)-24日(土) 会場 | パシフィコ横浜ノース

今と未来を見つめる精神医学

～目の前の患者さんに最善の医療を提供し、将来さらに良い医療を提供できるように努力する～

Psychiatry Looking to the Present and the Future
Make the effort to provide the best medical care available, and to improve it for the future.

会長 伊豫 雅臣
副会長 木村 直人
志津雄一郎

一般演壇申込期間: 2022年10月3日(月)-11月30日(水) <https://www.c-linkage.co.jp/jspn119/>

約10年間行った加圧トレーニングがあります。加圧トレーニングを行うとターゲット筋肉での乳酸反応が強く起こり、全身へのエネルギーの供給となります。

またホルモンセンサーへの刺激ともなりテストステロンなど多くのホルモン分泌の起こることが報告されています。

筆者は何とかこの加圧理論を加圧ベルトを使わないで行う筋トレを模索した結果が「ノグチ式筋活」ということになりました。

基本的にはターゲットの筋肉を決める。そしてその筋肉に軽々中等度の運動負荷をかける(20回位は続け

られるレベルの強さ)。10回1セット(6〜7秒)として毎朝1〜3セット行う。

体力がついてきたら10セット1分へ挑戦する。この10セットは動作にすると300回となります。この300回を正確に数えることは少々頭を使うことにもなります。しかもこれをトップスピードで行うことは間違

いなく「脳活」となっています。又筋肉による血管壁への振動刺激はZ〇分泌による循環改善から心臓リハビリになっていると考えられます。

若い世代にはエアロビクスで「全身持久力」をつけるのは大切ですが、中高年、

有病者には「筋持久力」をつけるこの方法の必要性を感じています。

今までもスキー部、サッカー部、また白鯨社の諸先生・学生諸君には私の方法論を説明してまいりました。いまだ未完成ではありますが、とりあえず報告させていただきます。

同窓会員著書の紹介の御案内を頂いた同窓会会長の吉原俊雄先生に感謝申し上げます。



令和4年度 第2回理事会議事要旨抜粋 (ZOOM利用によるWeb会議)

日時：令和4年11月10日
(木) 18時より

出席者…

- 吉原俊雄 (会長)
- 栗原正利 (副会長)
- 白澤 浩 (副会長)
- 大井利夫 (参与)
- 吉川廣和 (参与)
- 伊藤達雄 (参与)
- 赤倉功一郎 (安西尚彦)
- 石川昭雄 (上田真喜子)
- 齊藤光江 (諏訪園靖)
- 高橋宏和 (田邊政裕)
- 鶴田好孝 (十川康弘)
- 中島 透 (西川哲男)
- 幡野雅彦 (林田和也)
- ピラス洋子 (菱木知郎)
- 星野 聡 (松前孝幸)
- 三科孝夫 (宮本恒彦)
- 横須賀忠 (敬称略)

吉原俊雄会長が座長となり議事が進められた。

議 題

1. 報告事項

(1) 予算執行状況 (中間報告)

幡野雅彦理事より予算執行状況について、収入は会費納入が現時点で昨年より140万円増となっており、会費請求をすでに年3回(総会案内、会報189号、

(3) ホームカミングデー
白澤浩副会長より令和4年11月20日(日)同窓会館にて開催予定であり、卒業50年、25年の参加予定者は53名ほどである。ゐのはな音楽部の学生による弦楽四重奏があり、式典開始前に1曲、式典開催の挨拶後に学生を紹介し、もう1曲演奏予定とした。会場にパ

190号)行っているためと思われること。一般寄附として故奥井勝二先生ご遺族からの寄附、メモリアル事業DVDの寄附が420万円超となったこと。支出については、総会費はほぼ予算どおりの支出、理事会費、委員会費は年度末に謝金の支出予定、白菊会の助成はメール審議で承認されたように使用目的を限定し、医学部に寄附として納入する予定、支部活性化経費は6支部に支援、メモリアル事業費としてDVD制作費、DVD作成費用支出、予備費からDVD制作追加費用、DVD郵送費等を支出している事などが説明され、承認された。

(2) 医学部旧本館DVD寄附状況
吉原会長よりDVDの寄附者が800名以上、金額が420万円を超え、会員以外にも看護学校OB、学生保護者、大学事務、大学近隣の方などからの申し込みがある事が説明された。今後も振込用紙付きパンフレットを会報送付の際に同封する事とした。

(3) ホームカミングデー
白澤浩副会長より令和4年11月20日(日)同窓会館にて開催予定であり、卒業50年、25年の参加予定者は53名ほどである。ゐのはな音楽部の学生による弦楽四重奏があり、式典開始前に1曲、式典開催の挨拶後に学生を紹介し、もう1曲演奏予定とした。会場にパ

ネル作成した歴史年表、それぞれの卒業時に発行されたゐのはな同窓会報の拡大コピーを展示する。医学部のDVDを視聴し紹介する。DVDの当日配布も可能として準備する。閉会后、希望者が医学系総合研究棟、附属病院の見学予定である。

(4) 名簿発行について
安西尚彦理事より3年毎に発行する名簿を令和5年10月下旬に「令和6年版」として発行する事が説明された。研修医制度の変更に

(1) 令和5年度総会について
吉原会長より総会の開始

時間については少し早めに14時半からの開催とする事が提案され、承認された。令和5年度もステーションコンファレンス東京にてハイブリッド形式で行う事が説明された。懇親会は着席としてお弁当等での開催を予定しているが、今後の状況に応じて対応する事とした。

講演会については 演者として岩川真由美先生(昭53)、鎌谷洋一郎先生(平14)が候補に挙げられ、同門の菱木知郎理事、提案くださった横須賀忠理事から、それぞれの候補者に総会講演会の依頼の連絡をする事とした。

(2) 同窓会館の今後の維持
田邊政裕理事よりゐのはな同窓会館の改修工事見積りについて説明があった。大学本部、医学部の施設課と検討し、見積の優先順位については、まず1階(和室)部分の湿気対策、空調整備等の工事が必要であること、数年かけての改修計画となるが改修工事費用については、千葉大みらい医療基金から寄附募集する案が提案され、承認された。

今後は、白澤副会長より、みらい医療基金と相談して進めていく事とした。

(3) 医学部旧本館保存について
吉原会長より旧本館の保存については数年以内の決定が必要であるが、ゐのはな同窓会だけではなく大学本部、医学部、薬学部、看護学部との全体で進める事が必要であり、重要な文化財としての保存、県民・市民に有益に利用できる建物として協力を得られればと考えており、千葉県知事、千葉市長との懇談を予定している事が話された。大井利夫参与から提案された学年幹事に依頼し旧本館の思い出などの記念文集の作成。

栗原正利副会長から中村真人理事が「医学部旧本館85年の記憶」DVDの千葉テレビでの放映について検討されている事が話された。

(4) 千葉大学基金寄附依頼の同窓会報への同封について
次号191号に千葉大学基金の寄附依頼を同封する事が承認された。

(5) 千葉大学医学部150周年について
吉原会長より150周年記念事業として、田邊理事作成の歴史年表を完成、旧本館の思い出などを含めた学年幹事の文集作成、栗原副会長から初代学長・長尾精一先生の胸像の再建、白澤副会長から千葉大学医学

部85年史、100年史のデジタル化、などの検討を今後進めていく事が承認された。

(6) その他
古い資料の保存について

は、ホームカミングデー終了後に参加理事により資料の量など簡単な確認をする事とした。

令和6年版名簿発行のお知らせ

このたび、令和6年版同窓会名簿を発行する運びとなりました。「安全」「正確」なデータ管理のため、同窓会を総合的にサポートする専門会社サラトに業務を委託しています。同社より確認はがきや名簿購入の案内を送信して作業を進めてまいりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

- 名簿発行日：令和5年10月下旬
- 体 裁：変型A4判(約470頁)
- 名簿価格：3,000円(送料・税込み)

名簿作成委託先

株式会社サラト(兵庫県姫路市)のホームページ
<https://salat.co.jp/>

小澁 智哉 (昭23)
 永瀬 治彦 (昭24)
 蜂矢 英彦 (昭24)
 奥野 文雄 (専24)
 田口 正義 (昭26)
 小川源太郎 (昭27)
 大津 正典 (昭29)
 伊藤 敏夫 (昭30)
 神田 收茲 (昭32)
 野口 照義 (昭32)
 高野 光司 (昭33)
 平山 守 (昭33)

おくやみ

久田 堯夫 (昭35)
 松村 康一 (昭和医大・昭36)
 黄田 江庭 (昭38)
 林 直諒 (昭38)
 富岡 玖夫 (昭39)
 三好 弘文 (昭40)
 塚本 嘉一 (昭41)
 福田康一郎 (昭41)
 飯塚 登 (昭44)
 矢田 洋三 (昭44)
 宮本 治子 (鹿児島大・昭54)
 矢野 望 (昭57)

編集後記

故郷に戻り開業して24年が経ちました。
 新型コロナウイルスの流行のため、この3年間右往左往をする日々でした。
 初期のころは流言飛語が飛び交い、私もコロナに感染したとうわさが流れ、患者さんから問い合わせの電話が鳴り響いておりました。
 最近では日常生活もようやく落ち着き、私のいる神奈川県西部では平塚七夕まつり、小

田原北条五代祭り、伊勢原道灌祭り、秦野たばこ祭り、厚木鮎祭りなどが3年ぶりに開催され、賑わいを取り戻しました。反面感染者数が再び増加し始めたことは気懸りです。コロナ感染症もせめて季節性インフルエンザのように簡便な治療薬があればと思います。このまま日常生活が平穏であることを祈っています。

飯沼克博 (昭55)

会費納入のお願い
 口座振替のおすすめ

令和4年度るのほな同窓会費 (5,000円) の納入をお願い致します。
 同封の振込用紙をご利用の場合、手数料は無料です。
 会費納入には口座振替が便利です。
 口座振替申込用紙は同窓会事務局までご請求ください。
 TEL : 043 - 202 - 3750
 E-mail : info@inohana.jp



DVD千葉大学医学部旧本館
 85年の記憶

千葉大学るのほな同窓会の旧本館メモリアル事業に対して3,000円以上のご寄附をされた方に返礼品として差し上げます。

お問い合わせ
 千葉大学るのほな同窓会事務局
 TEL : 043 - 202 - 3750
 E-mail : info@inohana.jp

千葉医学98巻5・6合併号 2022年12月

最終講義に代えて
 教科書に書かれていないウイルス学 白澤 浩

千葉医学会奨励賞
 心不全・心筋症・循環器希少疾患における病態生理の解明及び抗凝固薬の個別化医療への応用 小野亮平

学会
 第1441回千葉医学会例会・第11回臨床研修報告会
 第1444回千葉医学会例会・第42回歯科口腔外科例会
 第1454回千葉医学会例会・第45回千葉泌尿器科同門会学術集会

研究報告書
 2021年度猪之鼻奨学会研究助成金研究報告

編集後記 金田篤志
 第15回 (2023年度) 千葉医学会賞および奨励賞候補者の公募について

第16回ちば Basic & Clinical Research Conference開催のお知らせ
 98巻総目次・索引

Chiba Medical Journal
 Original Article

Long-term results of femoral curved varus osteotomy for idiopathic osteonecrosis of the femoral head
 Satoshi Yoh, Junichi Nakamura, Shigeo Hagiwara, Yuya Kawarai, Satoshi Iida, Shunji Kishida, Takayuki Nakajima, Tomonori Shigemura, Shuichi Miyamoto, Kensuke Yoshino, Sumihisa Orita, Yawara Eguchi, Kazuhide Inage, Yasuhiro Shiga, Tsutomu Akazawa, Seiji Ohtori, and Yoshitada Harada

Early involvement of the child protection team in a tertiary care hospital for detection of child maltreatment
 Naoki Saito, Tasuku Hashimoto, Mamiko Endo, Go Inokuchi, Naoki Shimojo, and Hirotarō Iwase

Case Report
 Spontaneous regression of methotrexate-related lymphoproliferative disorders in rheumatoid arthritis: reports of three cases followed for up to 5 years
 Juntaro Maruyama, Junichi Nakamura, Kento Nawata, Shigeo Hagiwara, Yuya Kawarai, Sumihisa Orita, Yawara Eguchi, Kazuhide Inage, Yasuhiro Shiga, Seiji Ohtori, and Kei Ikeda